

家庭用コンピューターミシン

取扱説明書

CP969シリーズ

- 本書を読んでから製品を使用してください。
- 本書はなくさないように注意し、いつでも手にとって見るようにしてください。

はじめに

この度は、本機をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、この取扱説明書をご覧になり各機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ末永くご愛用ください。
また、お読みになった後は保証書とともにお使いになられる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

なお
使用
前に

基本
操作

安全にお使いいただくために

この取扱説明書および本機に使われている表示や絵文字は本機を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。



警告

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を表しています。



注意

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

実用
ぬい

本書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない禁止事項



特定しない危険通告



分解してはいけません



感電の危険があります



水に濡らしてはいけません



火災の危険があります



特定しない義務行為



やけどの危険があります



電源プラグを抜いてください

お
手
入
れ

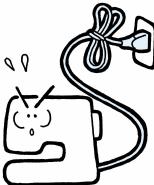
そ
の
他

この製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。

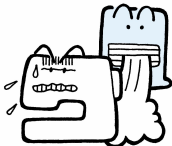
⚠ 警 告

	● 一般家庭用電源 A C 1 0 0 V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の恐れがあります。	
	● 以下のようなときは電源を切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の恐れがあります。 ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用したあと ・ 運転中に停電したとき	

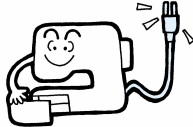
⚠ 注 意

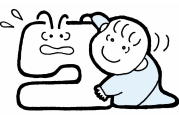
	● 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。	
	● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。	
	● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。	
	● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにて修理をお受けください。	
	● 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。	

⚠ 注意

	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。	
	スプレー製品などをご使用の部屋ではご使用にならないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。	
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。	
	本機の換気用の穴をふさがないでください。換気用の穴は、必ず壁から30cm以上離してお使いください。又、換気用の穴やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。	
	本機の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、本機に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。	
	換気用の穴や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電の恐れがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。	

⚠ 注 意

	● 本機の重さは約10kgあります。 本機を持ち運ぶ際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。	
	● 本機は必ずハンドルを持って、持ち運びしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落したりして、けがの原因となります。	
	● 本機には取扱説明書に記載されている正規の部品をお使いください。他の部品を使うとけが・故障の原因となります。	
	● お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご依頼ください。	
	● 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは、感電の原因となります。	
	● ランプを交換するときは、ガラスの部分が冷えてから行ってください。やけどの原因となります。	
	● ミシン操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。	
	● 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けがの原因となります。	

⚠ 注 意		
	針の下などに指を入れないでください。けがをする恐れがあります。	
	上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示にしたがって正しく行ってください。取り扱いを誤りますと、縫製中、糸絡み等が発生し、針が折れてけがをする恐れがあります。	
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針が折れてけがの原因となります。	
	万一、本機を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。	
	万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。	
	本機が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息の恐れがあります。	
	お子様の玩具としてご使用にならないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、お子様がけがをしないよう充分注意を払ってください。	

このミシンは、日本国内向家庭用です。

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

本書の読み方

インデックスについて

本書は、より早く見たい項目を捜すため右ページに目次と連動したインデックス(色分け)を設けてあります。有効的にお使いください。

なお
使用
前に

警告表示について

本書のなかには安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐための警告表示が使われています。

その表示と意味はP.1に書かれています。注意事項を守って正しくお使いください。

基本
操作

こんな機能が付いています

- 下糸巻きが簡単です。
下糸を巻くときの準備が簡単で早くなりました。
- ワンタッチで下糸準備完了。
下糸クイックで下糸の引き上げをしなくてもぬうことができます。
- トラブル防止のための上糸シャッターが付いています。
押えを下げたままでは上糸がかけられないように、上糸シャッターが付いています。
上糸は必ず、押えを上げてかけてください。
- 模様の選択が簡単です。
すべての模様がダイレクトに選択できます。

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

そ
の
他

目次

お使いになる前に

各部の名称とはたらき	8
表示パネルと操作スイッチの名称とはたらき	10

お
使
い
な
る
前
に

基本操作

電源の入れ方	11	ぬい目調整	22
下糸巻き / 下糸セット	12	糸調子	23
上糸通し	15	針交換	24
ミシンの動かし方	18	押え交換	26
■ フットコントローラ(別売り)を使用する場合		自動止めぬいの使い方	27
模様の選び方	19	プログラム糸切りの使い方	28
ぬってみましょう	20		

基
本
操
作

実用ぬい

直線ぬい	29 ~ 32	まつりぬい	37
■ 角ぬい		アップリケ	39
■ カーブぬい		つき合わせ	40
■ 厚地のぬい方		ファゴティング	41
■ 薄地のぬい方		ボタン穴かがり	42
■ 針板の使い方		かんどめ	46
■ フリーアームの使い方		ダーニング	48
ジグザグ	33	ファスナーつけ	50
伸縮ぬい・三重ぬい	34		
点線ジグザグ	35		
たちめかがり	36		

実
用
ぬ
い

お手入れ

ミシンの掃除	53
ランプの交換	55

お
手
入
れ

その他

ぬい方早見表	56
トラブルチェック	57
電子音	59

そ
の
他

各部の名称とはたらき

ハンドル

糸こま押え

下糸巻き案内

上糸調子ダイヤル

表示パネル

糸通しレバー

面板

糸切り

ボタン穴かがりレバー

糸通し装置

押え

送り歯

針板ふた

ドロップレバー

下糸巻き装置

プーリー

スピード
コントロール
レバー

操作スイッチ

押えレバー

なお
使用
前に

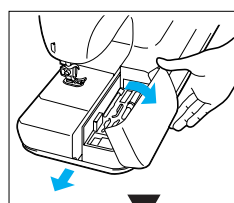
基本
操作

実用
ぬい

お手
入れ

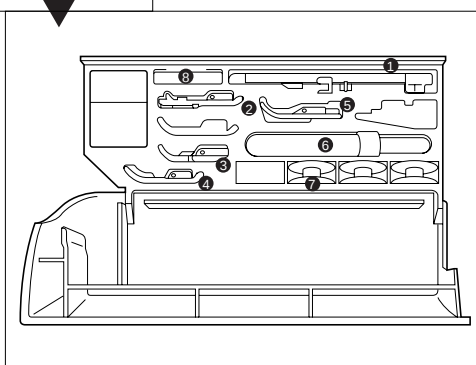
その他

A ■ 収納補助テーブル



押え記号

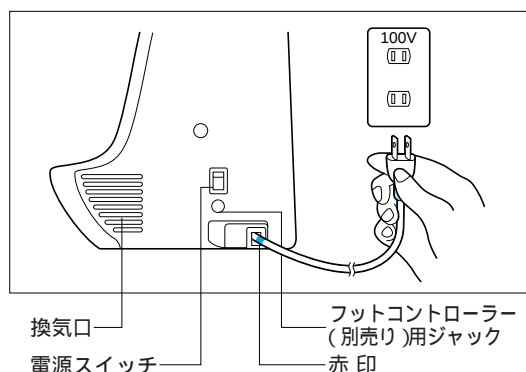
押えには押え記号が
付いています。



押え記号

- ① ボタン穴かがり押え A
 - ② 裁ち目かがり押え G
 - ③ 片押え I
 - ④ ジグザグ押え J 収納位置
 - ⑤ まつりぬい押え R
 - ⑥ リッパー
 - ⑦ ボビン
 - ⑧ ミシン針
- 印は空スペースです。付属部品などはありません。

B



換気口
電源スイッチ

フットコントローラー
(別売り)用ジャック
赤印

付属品

付属品がすべてそろっているかお確かめください。

付属品が足りないときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■収納補助テーブル内付属品

●押え

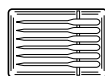
ジグザグ押え J

裁ち目がかり押え G

まつりぬい押え R

ボタン穴かがり押え A

片押え I

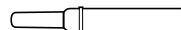


ミシン針

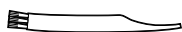
〔黄 針... # 11 2本
赤 針... # 14 2本
緑 針... # 16 1本
ゴールデン針... # 11 1本〕



ボビン(4個)



リッパー



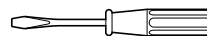
ミシンブラシ



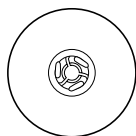
ハトメ穴パンチ



針板ドライバー

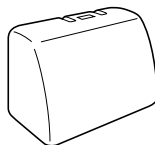


ドライバー

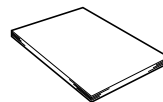


糸こま押え(大)

糸こま押え(小)は、ミシンの糸たて棒についています。糸こまの大きさに合わせてお使いください。

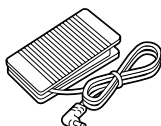


ハードケース

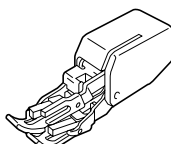


取扱説明書

別売り

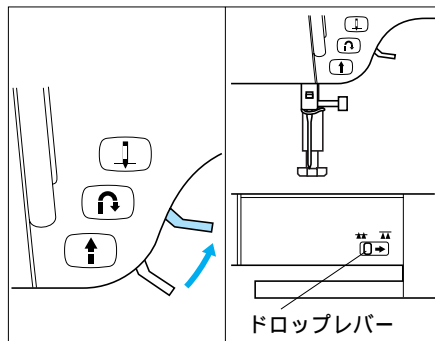


フットコントローラー(FC-308)
部品コードXA6964-051



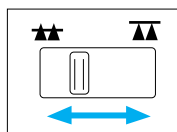
ウォーキングフット
部品コードX81125-001

ドロップレバー



フリーキルト、ハンド刺しゅうなど、手で布地を送ってぬう場合に、使います。

補助テーブルを取りはずし、押えレバーを上げてから、ドロップレバーを操作してください。

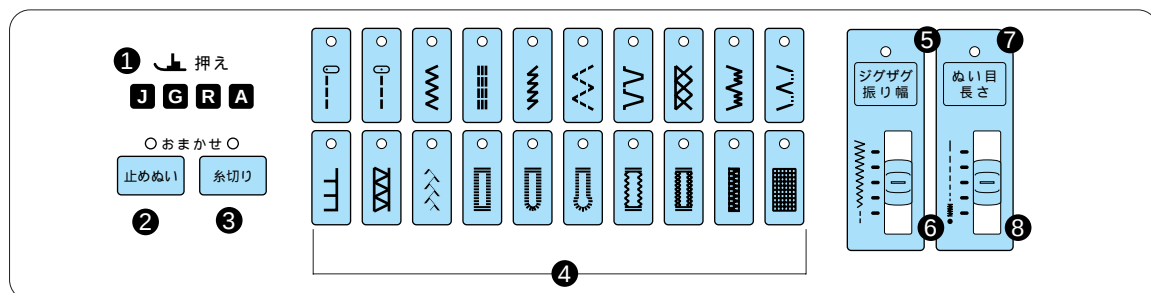


▲▲.....送り歯が上がり布地を送ります。

▲▲.....送り歯が下がり布地を送りません。

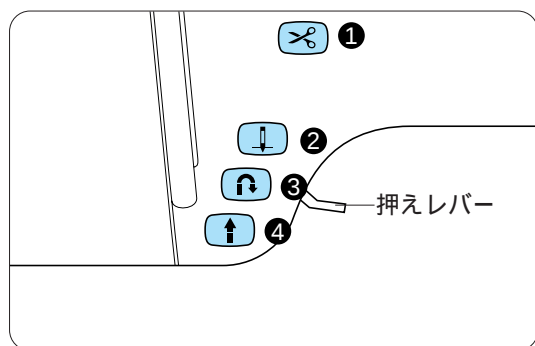
表示パネルと操作スイッチの名称とはたらき

表示パネル



- ① 押え記号表示**
選択した模様に対し、どの押えを使用するかランプでお知らせします。
- ② 自動止めぬいスイッチ**
ぬい始めとぬい終わりで、自動的にほつれ止めをするときに用います。
- ③ プログラム系切りスイッチ**
模様 of ぬい終わりで、自動的に糸を切るときに用います。
- ④ 模様選択キー**
模様を選択するときに用います。
- ⑤ ジグザグの振り幅マニュアルスイッチ**
ジグザグの振り幅を変えたいときに用います。
- ⑥ ジグザグの振り幅調節レバー**
ジグザグの振り幅（模様の幅）または針位置を調節するときに用います。
- ⑦ ぬい目の長さマニュアルスイッチ**
ぬい目の長さを変えたいときに用います。
- ⑧ ぬい目の長さ調節レバー**
ぬい目の長さを調節するときに用います。

操作スイッチ



- ① 糸切りスイッチ**
押すと上糸、下糸を自動的に切ります。
- ② 針上下スイッチ**
針の位置が上下に切り換わります。
繰り返し押すと一針ぬいができます。
- ③ 返しぬいスイッチ**
スイッチを押している間、低速で返しぬい（止めぬい）をします。
返しぬい・・・逆方向にぬいます
止めぬい・・・同じ場所で3針ぬって自動停止します
- ④ スタート/ストップスイッチ**
スイッチを押すとスタートし、もう一度押すと止まります。
スイッチはスタート可能な状態のときおよび縫製中は緑色になり、スタート不可能な状態のときは赤色になります。また、下糸巻のとき（下糸巻軸が右にあるとき）は、オレンジ色に点灯します。

スイッチを押している間は、低速でぬいます。
ミシンを停止させると針は下位置で止まります。

なお
使用
前に

基本
操作

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

そ
の
他

電源の入れ方

⚠ 警告

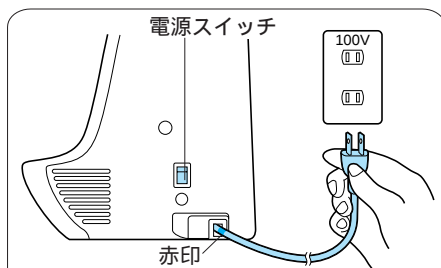


- 一般家庭用電源 AC 100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。
火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源を切り、電源プラグを抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 運転中に停電したとき

⚠ 注意

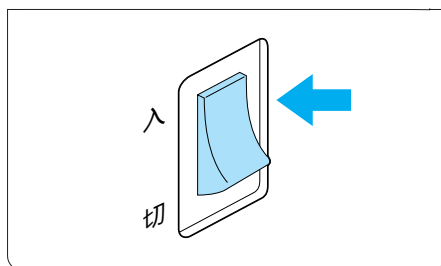


- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。
火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにて修理をお受けください。
- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- 1 電源コードを引き出し、コンセントに差し込んでください。

注意：電源コードは赤い印以上引き出さないでください。



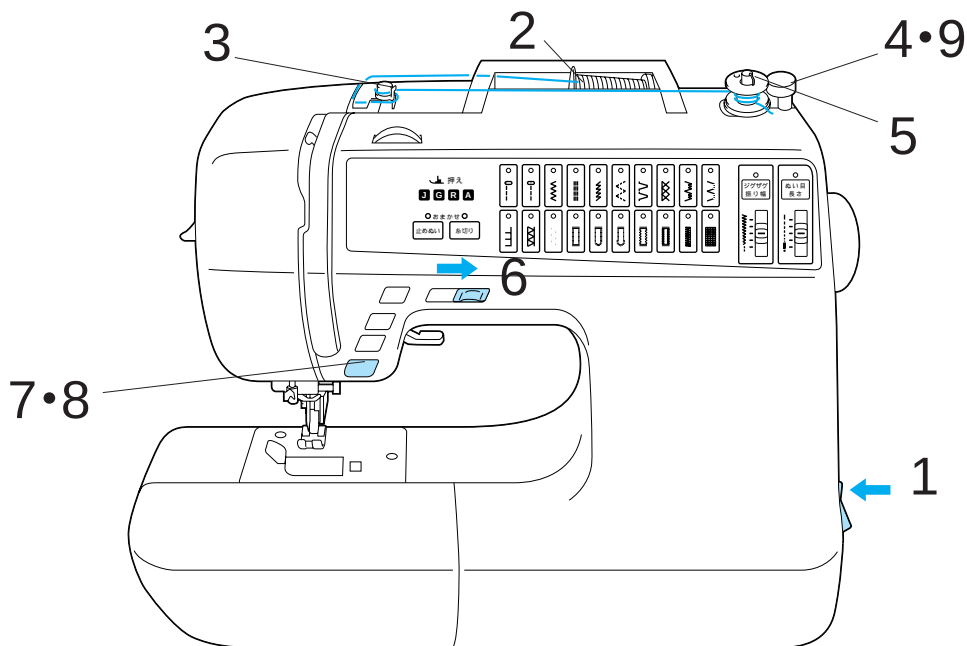
- 2 電源スイッチを「入」の方に押してください。
電源が入ります。
- 3 電源を切るときは、電源スイッチを「切」の方に押してください。
電源コードをしまうときは、少し（1～5cmほど）引っ張って手を離してください。自動的に収納されます。

下糸巻き / 下糸セット

▲ 注意



- 必ず専用ボビン（部品コードX80309-001）をご使用ください。
他の製品をご使用されますとけが、故障の原因となります。



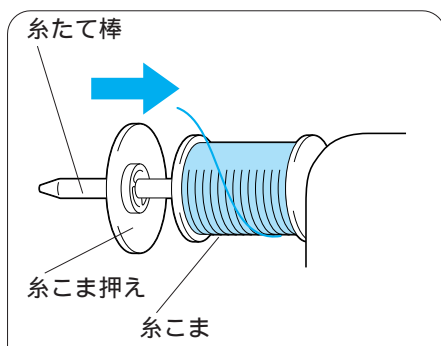
お
使
い
に
な
る
前
に

基
本
操
作

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

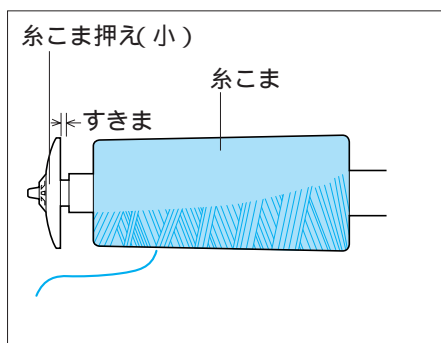
そ
の
他



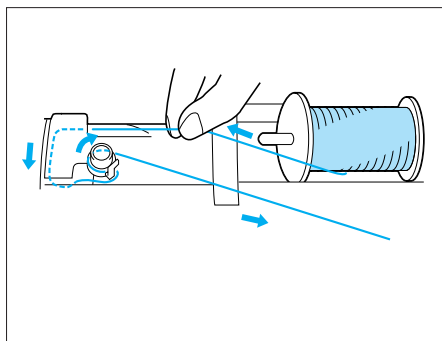
1 電源を入れてください。

2 糸こまを糸が手前から出るように糸たて棒に差し込み、糸こま押えを奥までいっばいに押し込んでしっかりと固定させてください。

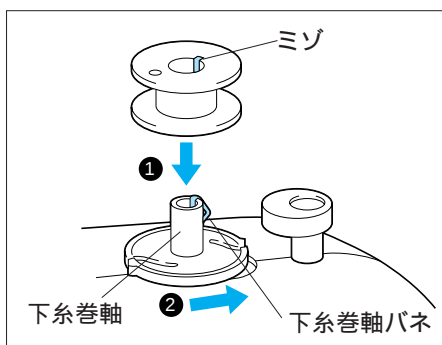
注意：糸こまの向き、糸こま押えを正確にセットしないと糸たて棒に糸がからまる恐れがあります。



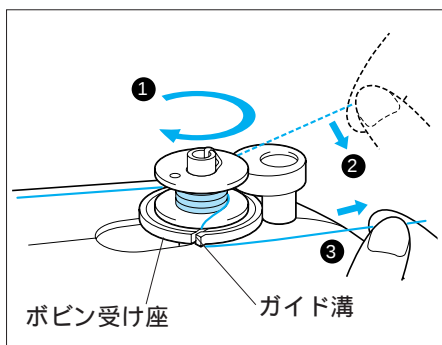
チーズ巻き(図参照)の糸こまを使用するときは糸こま押え(小)を使い、糸こまから少し離してセットしてください。



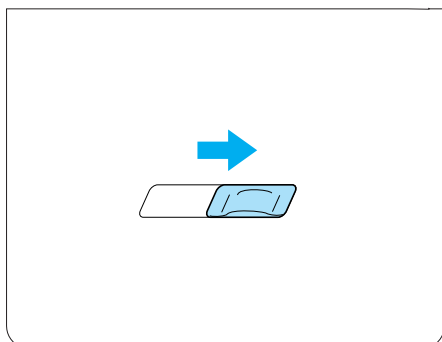
- 3 糸こま部の糸を右手で保持しながら左手で糸端を持ち、番号通りミゾにそって順序よく糸を通してください。



- 4 ボビンのミゾと下糸巻軸バネの位置を合わせて軸にセットし、右に押してください。



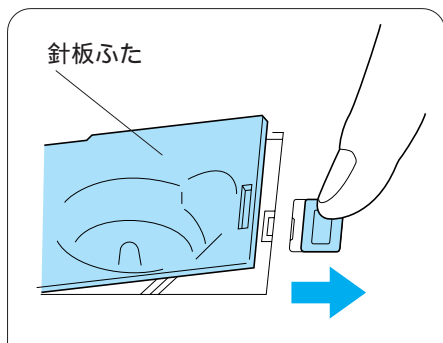
- 5 糸を時計回りに4～5回ボビンに巻き付け、糸端をボビン受け座のガイド溝に引っかけて、図の方向に糸を引いてください。カッターで糸が切れます。



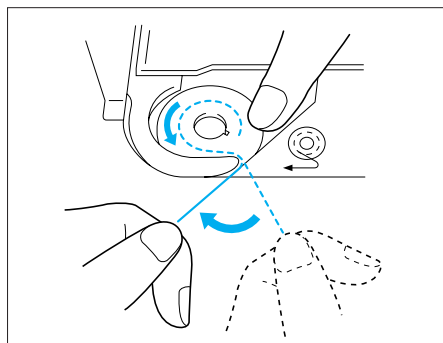
- 6 スピードコントロールレバーを「はやい」の方(→方向)にスライドさせてください。
- 7 スタートしてください。
巻き終わると自動的にボビンの回転は止まります。
- 8 ボビンの回転が止まったらスタート/ストップスイッチを押してミシンを止めてください。
- 9 糸を切り、下糸巻き軸を左に戻して、ボビンを外してください。
- 10 スピードコントロールレバーを「おそい」の方(←方向)に戻してください。

注意：下糸巻きをしたあと、次にミシンを運転するか、またはフーリーを手回しするとき、初めにクラッチのつながる音が発生しますが、トラブルではありませんのでご了承ください。

下糸セットのしかた



- 1 針板ふたの横のつまみを右に押して針板ふたを外してください。

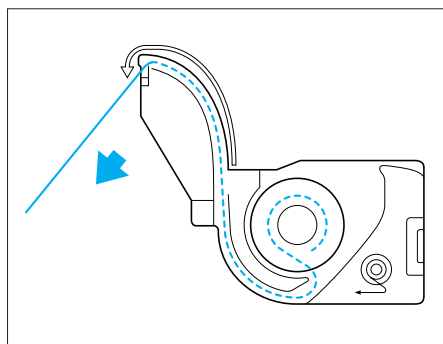


- 2 糸が左巻きになるようにボビンをセットしてください。

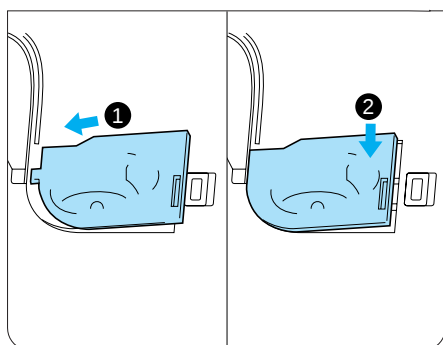
！ 注意



- ボビンは必ず正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットしますと糸調子不良になり、針が折れてけがをする原因となります。



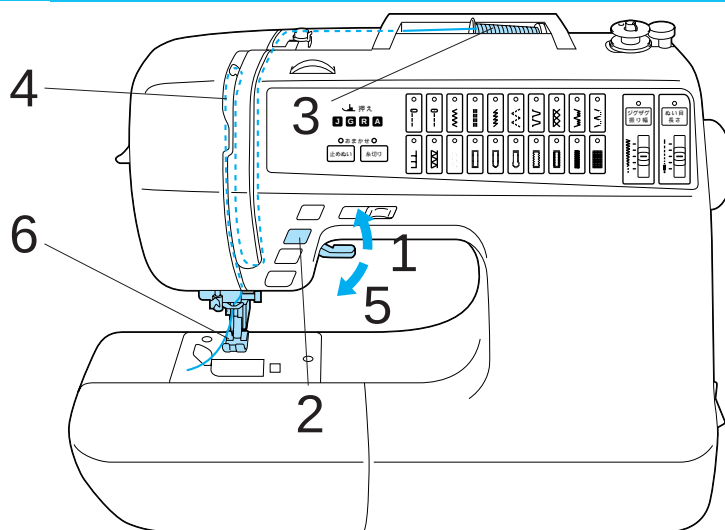
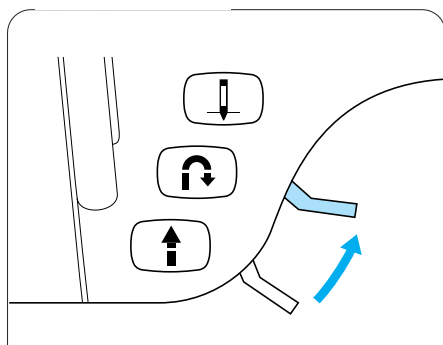
- 3 糸端を持ち、少し糸を引きながらミゾにそって終わりまで糸を通し、手前に引いてください。カッターで糸が切れます。



- 4 針板ふたの左側の部分を①の矢印のようにセットしてからふたを閉めてください。

下糸を引き上げなくてもぬうことができます。

上糸通し

お
使
い
に
な
る
前
に基
本
操
作実
用
め
いお
手
入
れそ
の
他

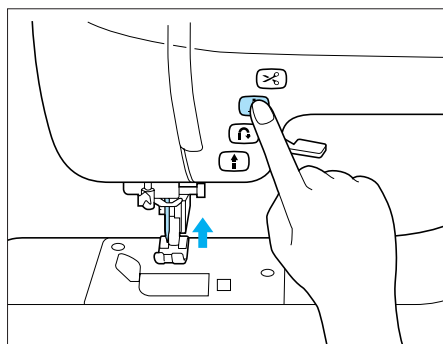
⚠ 注意



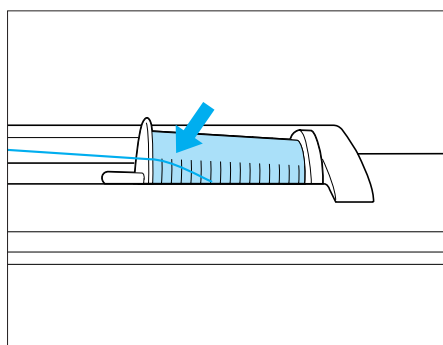
- 上糸通しは指示に従って正しく行ってください。糸が正しく通っていない場合、糸が絡んで針が折れけがの原因となる恐れがあります。

1 押えレバーを上げてください。

注意：上糸通しを確実にするために上糸シャッターがついています。押えを下げたままでは上糸通しはできません。

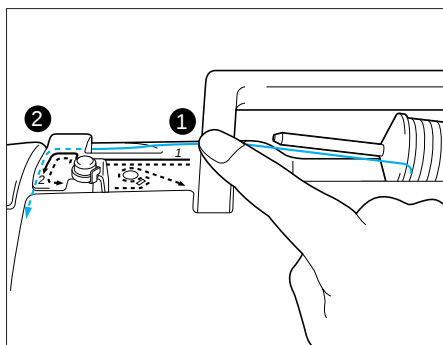


2 針上下スイッチを押して、針を上に戻してください。



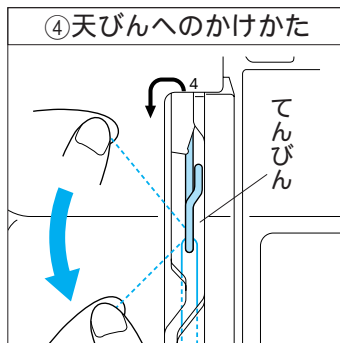
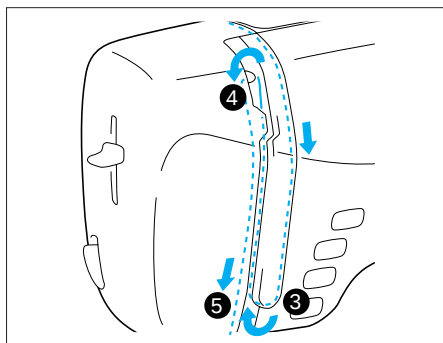
3 糸こまを糸が手前から出るように糸たて棒に差し込み、糸こま押さえを奥までいっばいに押し込んでください。

注意：糸こま押さえを奥までいっばいに押しこんでいないと、糸たて棒に糸がからまり針折れの原因となることがあります。

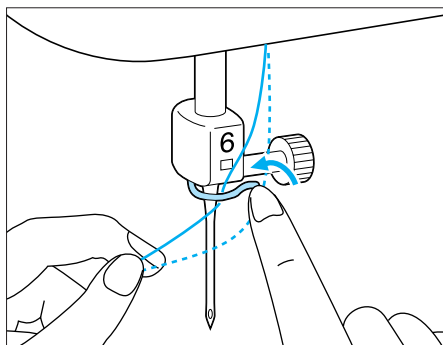


4 糸こま部の糸を右手で保持しながら左手で糸端を持ち番号順に糸を通してください。

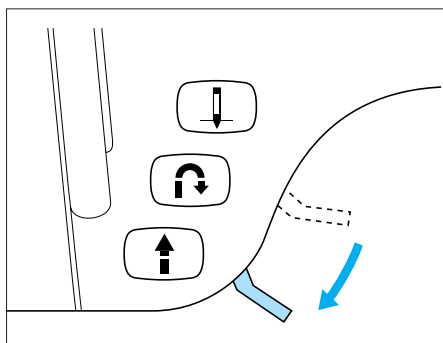
注意：●糸は①のところで押え、糸を張りぎみにすると②以後の糸案内に糸かけしやすくなります。
●糸が正しく通っていないと故障の原因となります。

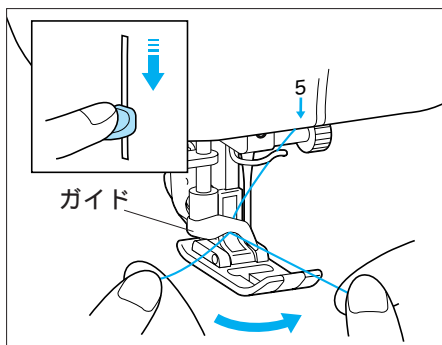


左手で糸を保持し、右手で糸掛けを行うと糸掛けがしやすくなります。



5 押えレバーを下げてください。





6 針に糸を通してください。

糸は針穴の前から後へ通します。

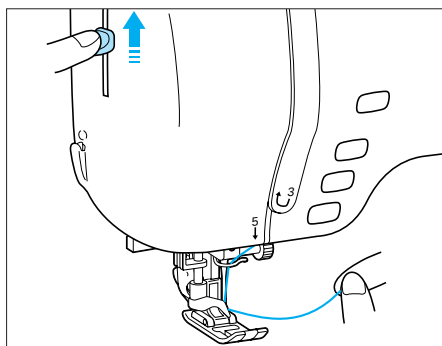
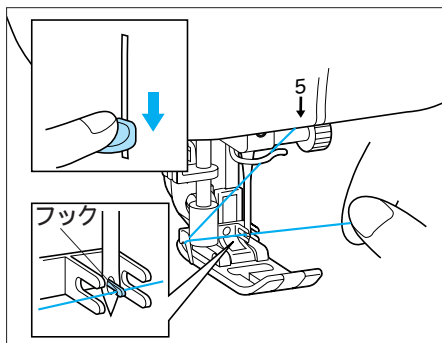
●糸通し装置の使い方

注意：糸通し装置はミシン針11～16番の範囲以内でご使用ください。
針と糸の適正な組み合わせは早見表 P.25 を参照してください。

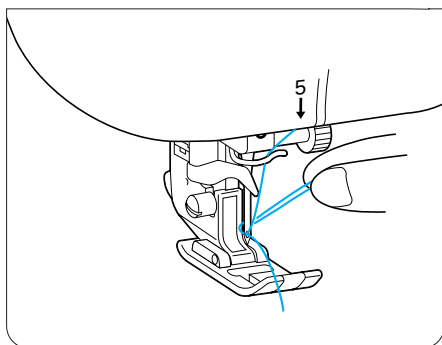
糸を右手で持って左の方にピンと張り、糸通しレバーを下げてガイドに糸をかけてください。

糸通しレバーをいっぱい下げ、糸をフックにかけてください。

（糸通しレバーをいっぱい下げるとフックが針穴に入ります。糸を右側にもっていきフックに引っかけてください。）



糸通しレバーを離すと同時に手から糸を軽く離してください。フックが糸を針穴に通します。

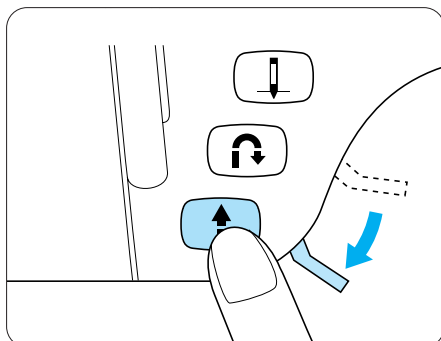


通した糸を後ろ側に引き出してください。

注意：無理に引っ張って針を曲げないようにしてください。

7 糸は押えの下を通してミシンの後ろ側に5cmほど引き出しておいてください。

ミシンの動かし方



- 1 押えの下に布地をセットし、押えを下げ、スタート/ストップスイッチを押してください。ミシンが動き始めます。

スピードコントロールレバーをスライドさせてスピードを調節してください。

スイッチを押している間は低速でぬいます。

スイッチはスタート可能な状態のときおよび縫製中は緑色に、スタート不可能な状態のときは赤色に、また、下糸巻きの際（下糸巻軸が右にあるとき）はオレンジ色に点灯します。

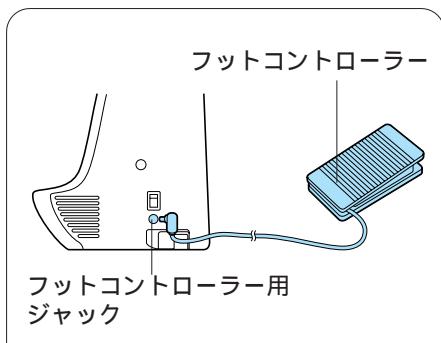
- 2 もう一度押すと止まります。

■ フットコントローラー（別売り）を使用する場合

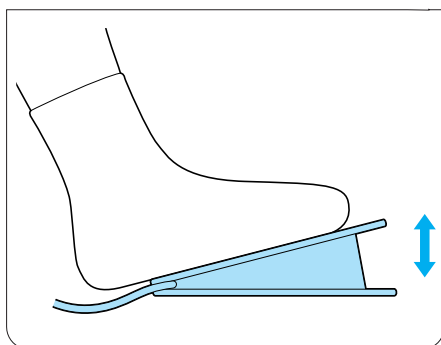
⚠ 注意



- フットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。けが、故障の原因となります。



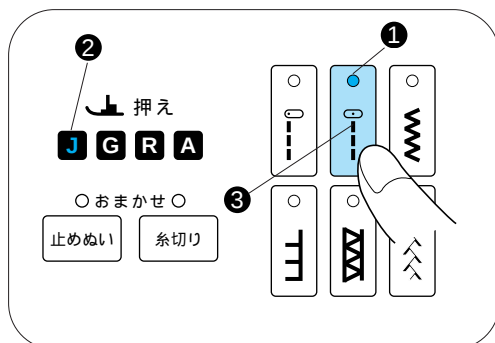
- 1 電源を切って、フットコントローラーのプラグをジャックに差し込んでください。



- 2 電源を入れ、ぬう準備ができたらフットコントローラーをゆっくり踏み込んでください。ミシンが動きます。本体のスピードコントロールレバーで設定された速度がフットコントローラーの最高速度になります。

- 3 踏み込みをやめるとミシンは止まります。フットコントローラー使用時はスタート/ストップスイッチは使用できません。

模様の選び方



ぬいたい模様を直接押してください。

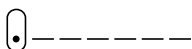
- ①ランプの点灯が、選択されていることを示します。
- ②押え記号
(この記号の押えに取り替えます。)
- ③模様記号

お
使
い
に
な
る

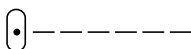
基
本
操
作

模様一覧

●直線(左基線)



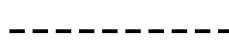
●直線(中基線)



●ジグザグ



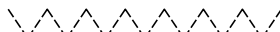
●三重ぬい



●伸縮ぬい



●点線ジグザグ



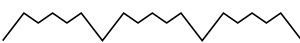
●たちめかがり



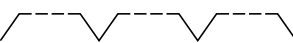
●たちめかがり



●まつりぬい



●まつりぬい



●アップリケ



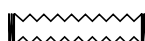
●つき合わせ



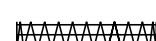
●ファゴティング



●ボタン穴かがり



●かんどめ



●ダーニング



実
用
ぬ
い

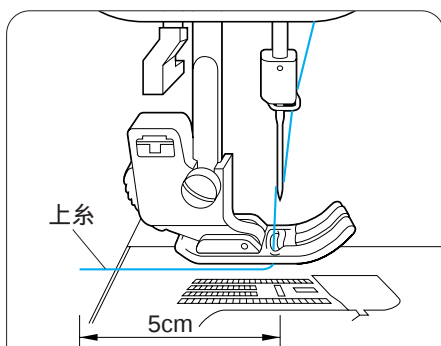
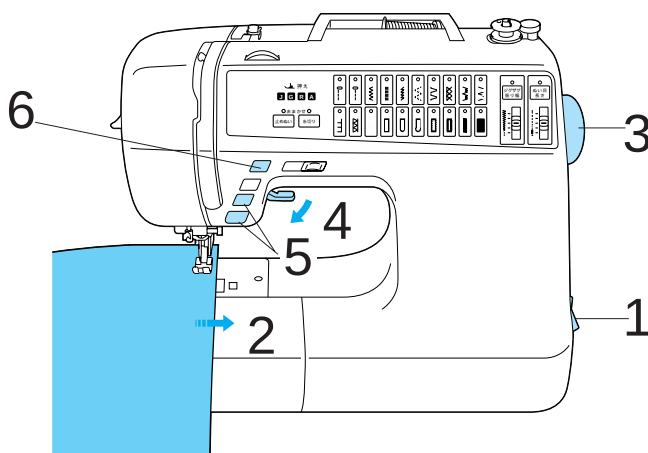
お
手
入
れ

そ
の
他

ぬってみましょう

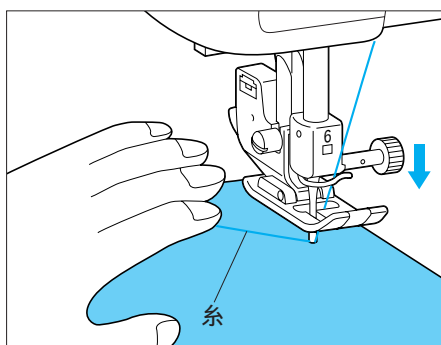
⚠ 注意

- ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押しったりしないでください。けがの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針が折れてけがをする原因となります。

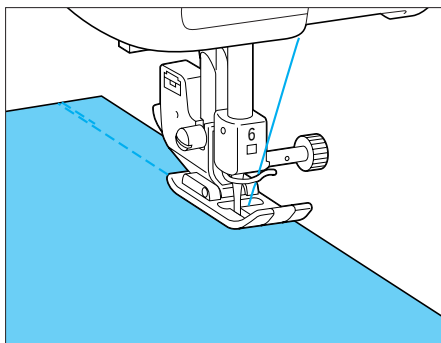


1 電源を入れてください。
直線 左 が選ばれます。

2 押えの下に布地をセットし、上糸を押えの下を通して
後へ5cmほど引き出しておいてください。
下糸は引き上げなくてもぬうことができます。
押えは<J>押えを使用します。

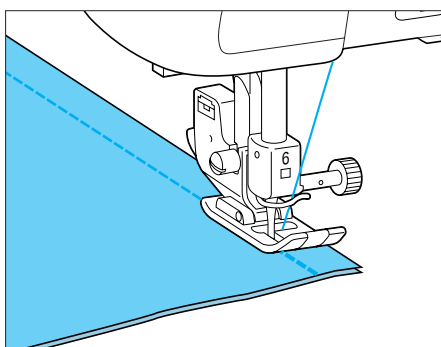


3 糸と布地を左手で押え、右手でプーリーを回してぬい
始めの位置より返しぬいの分だけ手前の位置に針をさ
してください。



- 4 押えを下げ、返しぬいスイッチを押しながら返しぬいをした後、スタート/ストップスイッチを押してください。ゆっくりぬい始めます。

ぬい始めとぬい終りに、返しぬいをすることで糸端のほつれ止めをします。

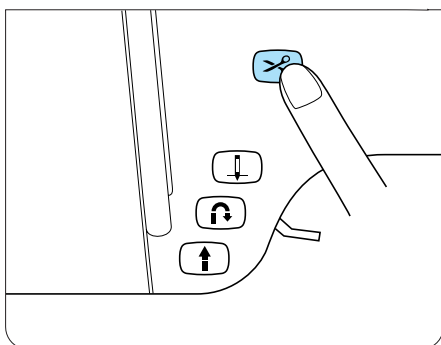


- 5 ぬい終わりは返しぬいスイッチを押しながら、返しぬいをしてください。

返しぬいは、スイッチを押している間だけできます。

返しぬいは、速度がゆっくりになります。

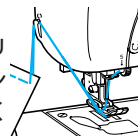
直線・ジグザグ以外の模様ぬいのときは、止めぬいになります。



- 6 糸切りスイッチを押して糸を切ります。針は下から上に移動します。

注意：●布地のない状態およびミシンが動いているときは糸切りスイッチを押さないでください。故障の原因となります。

- 30番以上の太い糸やナイロン糸、メタリック糸など特殊な糸を切る場合は、ミシン左横の糸切りカッターで糸を切ってください。



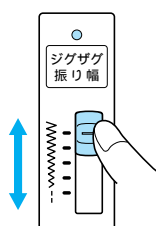
- 7 押えを上げて布地を取り出してください。

ぬい目調整

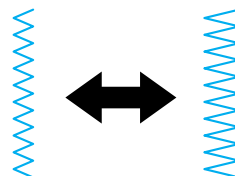
通常は、模様を選ぶと自動的に適正なぬい目がセットされています。好みのぬい目に調節したいときは、次のようにします。

なお
使用
前に

振り幅の調整

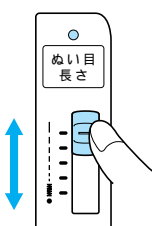


ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、調節レバーを上下に操作してください。振り幅が変わります。

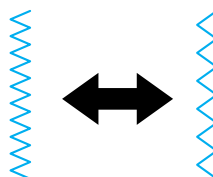


基本
操作

ぬい目の長さの調整



ぬい目の長さマニュアルスイッチを押し、調節レバーを上下に操作してください。ぬい目の長さが変わります。



実用
ぬい

■ 振り幅とぬい目の長さ調節早見表

模 様		振り幅		ぬい目の長さ		模 様		振り幅		ぬい目の長さ	
		自動	手動	自動	手動			自動	手動	自動	手動
直 線 左)		0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.2 ~ 4.0	アップリケ		3.5	2.5 ~ 5.0	2.5	1.6 ~ 4.0
直 線 中)		—	—	2.5	0.2 ~ 4.0	つき合わせ		5.0	2.5 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0
ジグザグ		3.5	2.5 ~ 5.0	1.4	0.0 ~ 4.0	ファゴティング		5.0	0.0 ~ 7.0	2.5	2.5 ~ 4.0
三重ぬい		0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.5 ~ 4.0	ボタン穴かがり		5.0	3.0 ~ 5.0	0.4	0.3 ~ 1.0
伸縮ぬい		1.0	1.0 ~ 3.0	2.5	1.0 ~ 4.0			5.0	3.0 ~ 5.0	0.4	0.3 ~ 1.0
点線ジグザグ		5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0			7.0	3.0 ~ 7.0	0.5	0.3 ~ 1.0
たちめかがり		3.5	2.5 ~ 5.0	2.0	1.0 ~ 4.0			6.0	3.0 ~ 6.0	0.5	0.5 ~ 2.0
		4.0	0.0 ~ 7.0	4.0	1.0 ~ 4.0			6.0	3.0 ~ 6.0	1.5	1.0 ~ 3.0
まつりぬい		0.0	+3 ~ -3	2.0	1.0 ~ 3.5	かんどめ		2.0	1.0 ~ 3.0	0.4	0.3 ~ 1.0
		0.0	+3 ~ -3	2.0	1.0 ~ 3.5	ダーニング		7.0	2.5 ~ 7.0	2.0	0.4 ~ 2.5

お手
入れ

その
他

糸調子

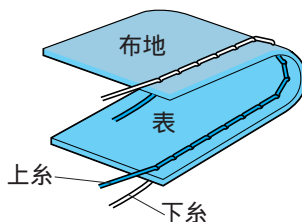
通常は、上糸調子ダイヤルを「自動」の位置に合わせると、適した糸調子がとれるようにセットされています。

布や糸の種類によっては、お好みにより上糸調子ダイヤルを回して糸調子を調節してください。

- サテンステッチ・ボタン穴かがりなどぬい目の長さを細かくしてぬう場合は、上糸をやや弱くしたほうがきれいにぬえます。
- ギャザー・シャーリング・シェルタックなどをする場合は、上糸調子ダイヤルで調節します。

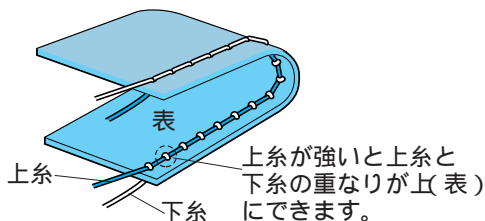
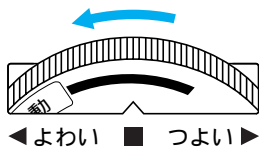
● 正しい糸調子

上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。糸調子が正しくセットされていないと、ぬい目がきたなくなり、布地にしわがよったりします。



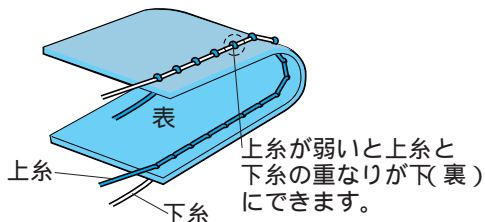
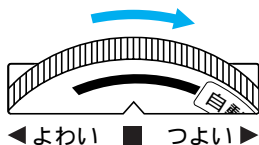
● 上糸が強すぎる時

上糸調子ダイヤルを左に回します。



● 上糸が弱すぎる時

上糸調子ダイヤルを右に回します。



針交換

⚠ 注意

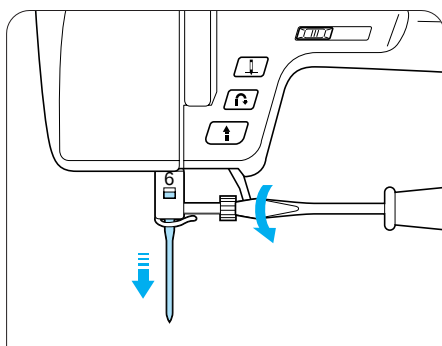
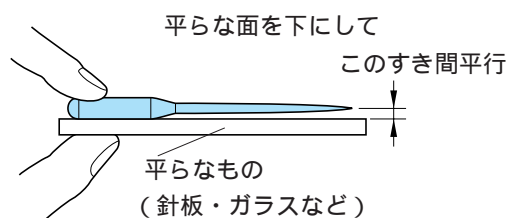


- 針の交換は、必ず電源を切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針が折れてけがの原因となります。

● 正しい針の見分け方

平らな物 針板、ガラス板など)に針の平らな面を合わせ、すき間が平行である針をご使用ください。

針は家庭用ミシン(H A × 1)をご使用ください

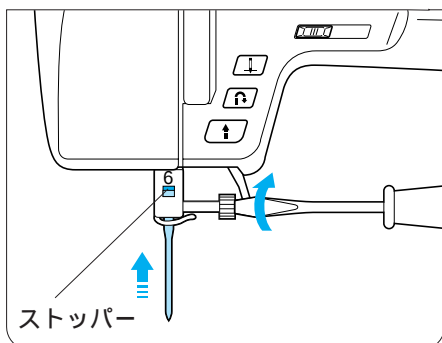
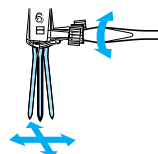


1 電源を切ってください。

2 押えレバーを下げてください。

3 ドライバーで針の止めネジをゆるめて針をぬいてください。

注意：止めねじをゆるめたりしめたりするときは大きな力を加えないでください。故障の原因となります。



4 新しい針の平らな面を後ろ側にしてストッパーにあたるまで差し込んでください。

5 ドライバーでしっかり止めネジをしめてください。

布地の糸と針

布地の種類		布地の種類		針の太さ
		種 類	太 さ	
普 通 地	ブロード	カタン系	60 ~ 80	11 ~ 14
	タフタ	合繊系	60 ~ 80	
	フラノギャバツ	絹系	50 ~ 80	
薄 地	ローン	カタン系	60 ~ 80	9 ~ 11
	ジョーゼット	合繊系	60 ~ 80	
	ポーラ	絹系	50 ~ 80	
厚 地	デニム	カタン系	40 ~ 50	14 ~ 16
	コーデュロイ	合繊系	50	
	ツイード	絹系	50	
のびる布地	ジャージ	ニット用糸		ゴールデン針 11 ~ 14
	トリコット			
ほつれやすい 布地		カタン系	50 ~ 80	9 ~ 14
		合繊系	50 ~ 80	
		絹系	50 ~ 80	
ステッチ系 の場合		合繊系	30	14 ~ 16
		絹系	30	

ゴールデン針は伸縮性のある布地や目と
びしやすい布地に効果があります。

ナイロン透明糸は、上記に関係なくミシン針14 ~ 16番の範囲内でご使用ください。

注意：布地と糸と針の組み合わせは上記の表に従ってください。

組み合わせが適切でないと、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。また、厚い布地（デニム等）を細い針（9 ~ 11番）でぬうと、針が曲がったり針が折れることがあります。

押え交換

⚠ 注意



押え交換は、必ず電源を切って行ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

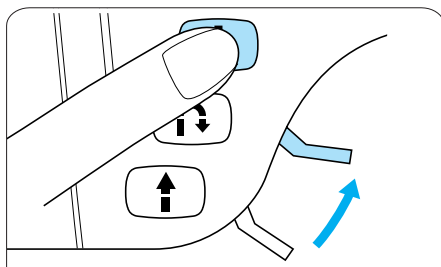
お
使
い
に
な
る
前
に

基
本
操
作

実
用
ぬ
い

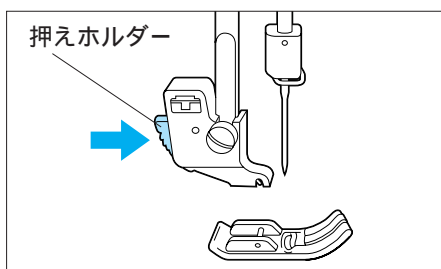
お
手
入
れ

そ
の
他

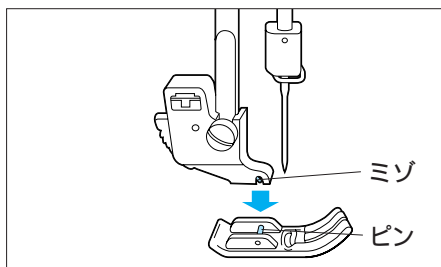


1 針上下スイッチを押して針を上にしてから電源を切ってください。

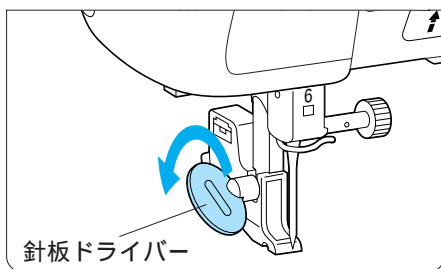
2 押えレバーを上げてください。



3 押えホルダーの黒いボタンを押してください。押えが外れます。



4 押えのピンを押えホルダーのミゾの位置に合わせて押えレバーを下げてください。押えが取り付けられます。



■ 押えホルダーのはずし方(お手入れのときなど)

押えホルダーのねじをゆるめて押えホルダーをはずしてください。

注意：押えホルダーを付け直す場合は、＜J＞押えを先に押えホルダーにセットし、押えレバーを下げた状態で押えホルダーのねじを確実にしめます。

自動止めぬいの使い方

模様を選択したときに、あらかじめ自動止めぬいを設定しておくとなぬい始めはスタート/ストップスイッチで自動的に止めぬい(直線のみ返しぬい)をし、ぬい終わりは返しぬいスイッチで止めぬい(直線のみ返しぬい)をして止まります。

なお
使用
前に

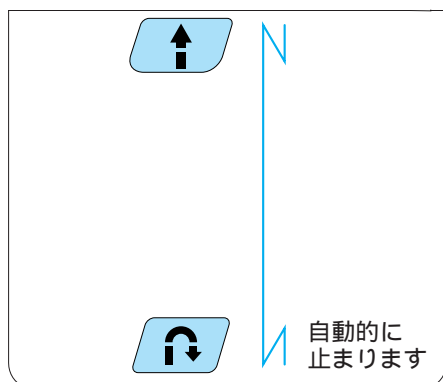
基本
操作



1 模様を選択してください。

2 自動止めぬいスイッチを押してください。

ランプが点灯します。
ボタン穴かがり、かんだめなどはじめから止めぬいが入っている
模様を選ばれたときは、自動的に設定されます。



3 スタート/ストップスイッチを押してください。止めぬい(直線のみ返しぬい)をしてスタートします。

ぬっている途中でスタート/ストップスイッチを押して一旦止め、再びスタートしても止めぬいはしません。

4 返しぬいスイッチを押すと、自動的に止めぬい(直線のみ返しぬい)をして止まります。

■ 自動止めぬいを解除するには

もう一度、自動止めぬいスイッチを押してください。
解除されます。

ランプが消灯します。

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

そ
の
他

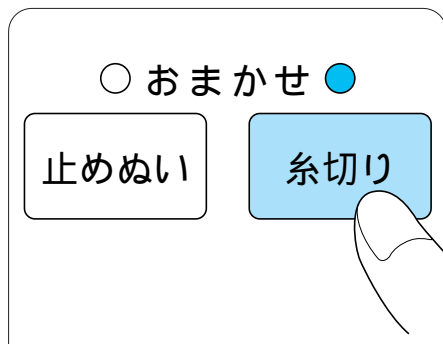
プログラム糸切りの使い方

めんどうな糸始末が要りません

模様を選択したときに、あらかじめプログラム糸切りを設定しておくといふ終わりで自動的に糸を切ります。ボタン穴かがりやかんどめをぬうときに便利です。

なお
使用
前に

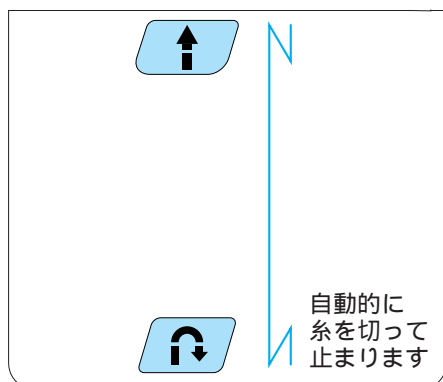
基本
操作



1 模様を選択してください。

2 プログラム糸切りスイッチを押してください。
ランプが点灯します。

注意：プログラム糸切りを設定すると自動的に自動止めぬいも設定されます。



3 スタート/ストップスイッチを押してください。自動的に止めぬい（直線のみ返しぬい）をしてスタートします。

4 返しぬいスイッチを押すと自動的に止めぬい（直線のみ返しぬい）して糸を切ります。

■ プログラム糸切りを解除するには

もう一度、プログラム糸切りスイッチを押してください。解除されます。

ランプが消灯します。

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

そ
の
他



直線ぬい

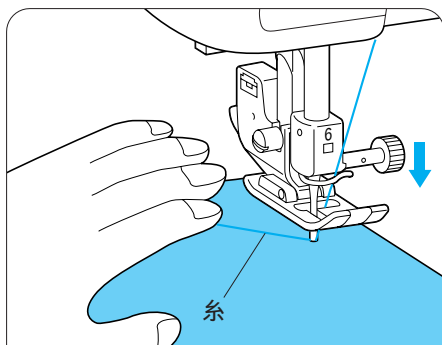
なお
使用
前に

基本
操作

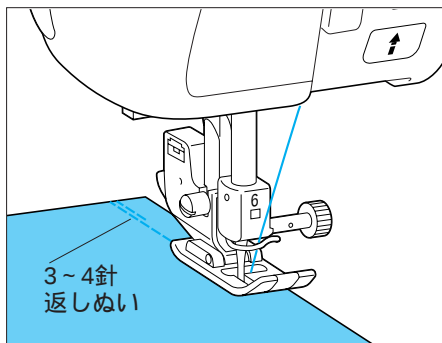
実用
ぬい

お手
入れ

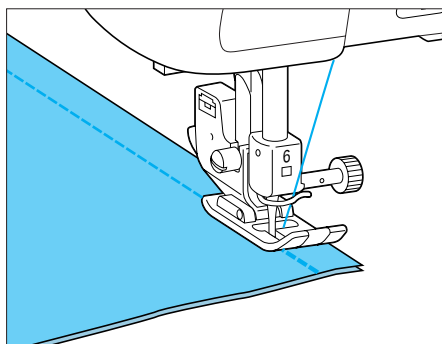
その他



- 1 <J> 押えを取りつけ、糸と布地を左手で押えて右手でプーリーを回し、ぬい始めの位置より返しぬいの分だけ手前の位置に針をさしてください。

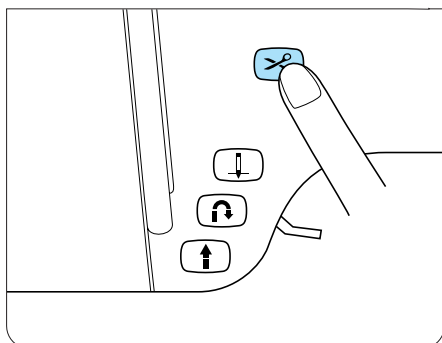


- 2 押えを下げ、返しぬいスイッチを押しながら返しぬいをした後、スタート/ストップスイッチを押してください。ゆっくりぬい始めます。



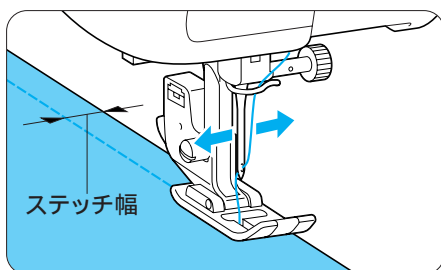
- 3 ぬい終わりは返しぬいスイッチを押しながら、返しぬいをしてください。

返しぬいはスイッチを押している間だけできます。
返しぬいは速度がゆっくりになります。



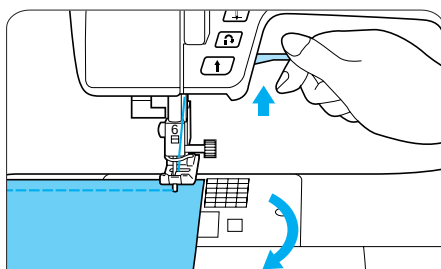
- 4 ぬい終わりは糸切りスイッチを押して糸を切ってください。

あらかじめプログラム糸切りを設定しておくと、自動的にぬい始め・ぬい終わりで返しぬいまたは止めぬいをして糸を切ります。



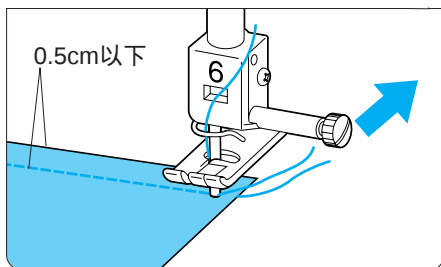
■ 針位置の変え方

左基線の直線でぬう場合、振り幅の調節レバーを動かすと、針位置を左右に移動させることができます。押えの端から針までの距離をステッチ幅に合わせると、ぬうときに押えの端に布端を合わせてぬえばよいので便利です。

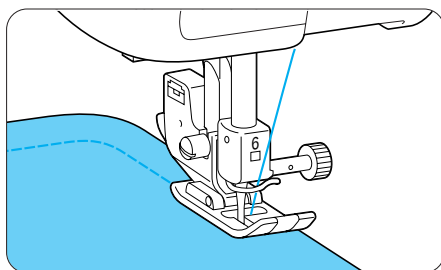


■ 角をぬう場合

左基線の直線でぬい、角まできたら一旦ミシンを止め、針を下げたまま押えを上げて、針を軸にして布地を回してぬい始めます。

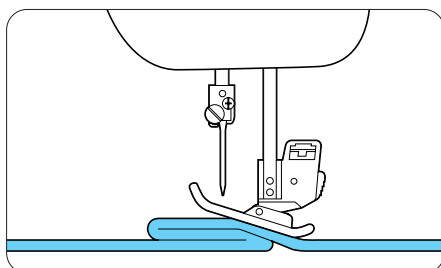


0.5cm以下のステッチでぬう場合は角部にしつけ糸をつけ、方向を変えたら糸を後ろへ引っ張りながらぬいます。



■ カーブをぬう場合

ぬい目を布端と平行になるようにミシンを止めて少しずつ布地の向きを変えながらぬいます。



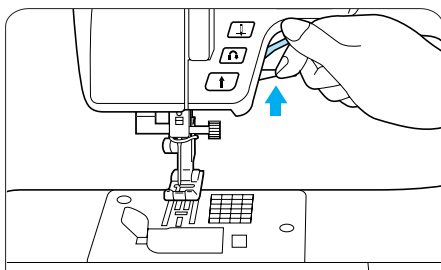
■ 厚地をぬう場合

厚地は6mmまでぬうことができます。段をぬうときは手で軽く補助して布送りを助けながら、布地を倒した方向にぬいます。

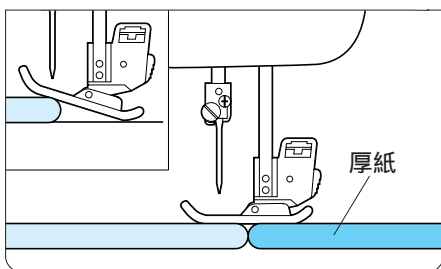
▲ 注 意



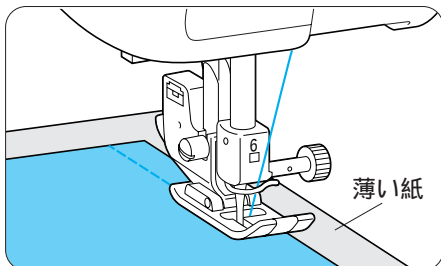
- 6mm以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりしますと針が折れ、けがをします恐れがあります。



押えレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、布地が入れやすくなります。

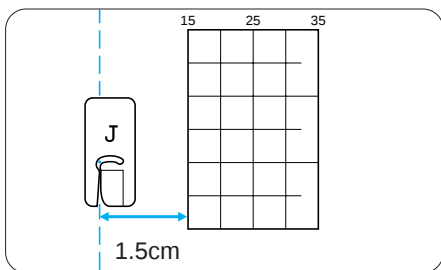


左図のように押えが傾いて布地が送らないときは、押えの後ろに同じ厚さの布地または厚紙をおいてぬうと、スムーズにぬうことができます。



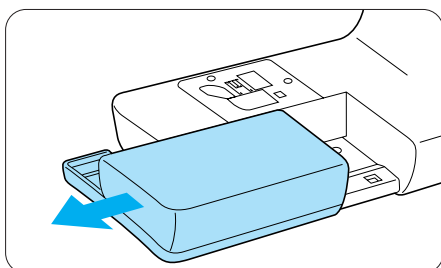
■ 薄地をぬう場合

布地の下に薄い紙をしいてぬうと、ぬいやすいです。



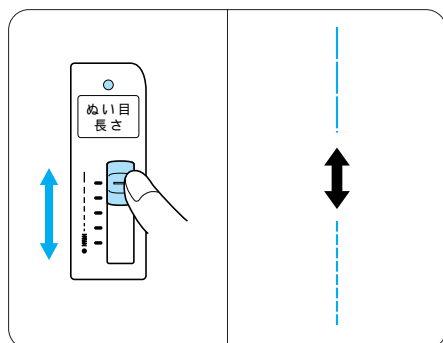
■ 針板の使い方

布端を針板の線に合わせてぬうとぬい幅がそろいます。



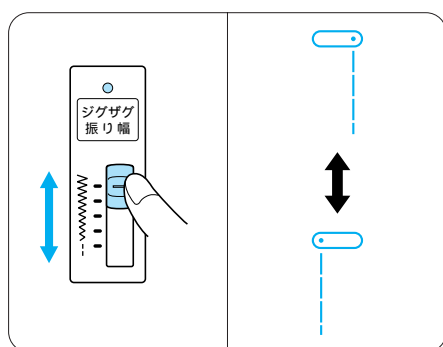
■ フリーアームの使い方

ズボンのすそ、カフスつけなど筒の部分の縫うときに便利です。部品ケースを外して使います。



■ぬい目の長さを変えるには

ぬい目の長さマニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。



■針位置を変えるには (と のみ)

ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。

 (中基線) は針位置を変えることはできません。

お
使
い
に
な
る
前
に

基
本
操
作

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

そ
の
他

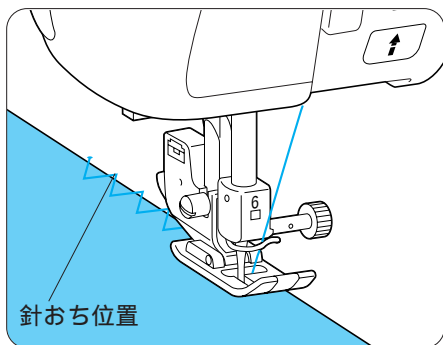


ジグザグ

ジグザグは、たちめかがりやアップリケ、パッチワークなどいろいろなぬい方ができます。

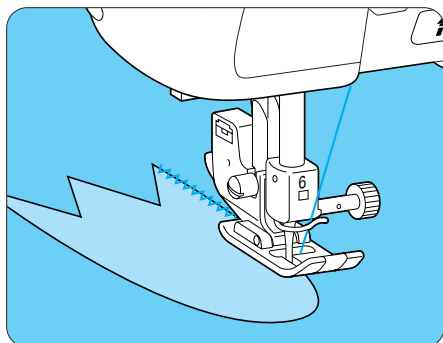
なお
使用
前に

基本
操作



■ たちめかがりのとき

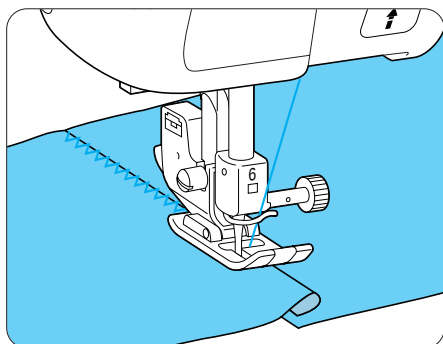
針を布端より少し外側に落としながらぬってください。



■ アップリケのとき

アップリケ布を薄く糊付けするか、しつけでとめてから針をアップリケ布の端より少し外側へ落としてぬってください。

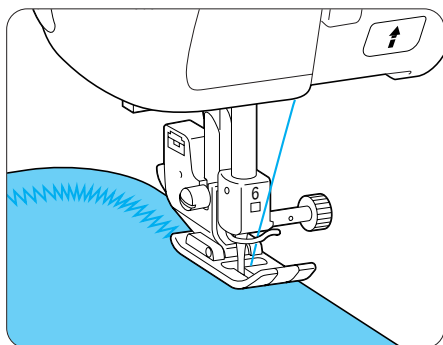
実
用
ぬ
い



■ パッチワーク クレイジーキルト のとき

上側の布地の端を折り、下側の布地に重ねて両方の布地に模様がまたがるようにぬってください。

お
手
入
れ



■ カーブをぬうとき

ぬい目を細かくしてぬうとぬい目がそろってみえます。

そ
の
他



伸縮ぬい・三重ぬい

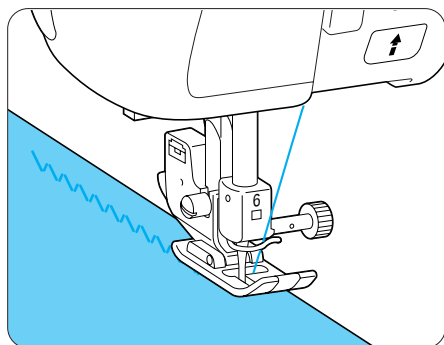
なお
使用
前に

基本
操作

実用
ぬい

お手
入れ

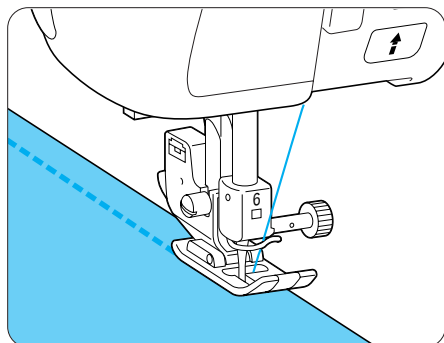
その他



■ 伸縮ぬい

伸びる布地に使用します。

布地を伸ばさないようにぬってください。



■ 三重ぬい

袖つけや股下などぬい目を丈夫にしたいときに使用します。



点線ジグザグ

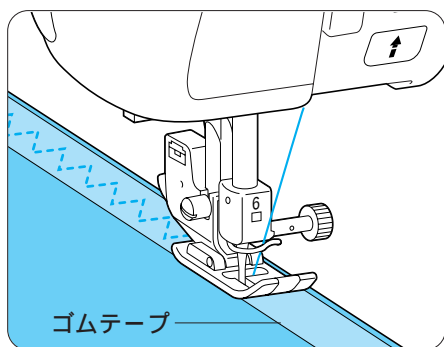
なお
使用
前に

基本
操作

実用
ぬい

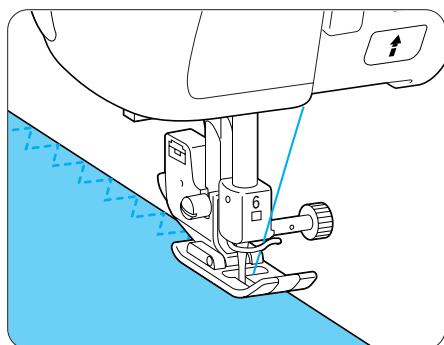
お手
入れ

その他



■ ゴムテープつけ

ゴムテープを前後に伸ばしながらぬってください。



■ たちめかがり

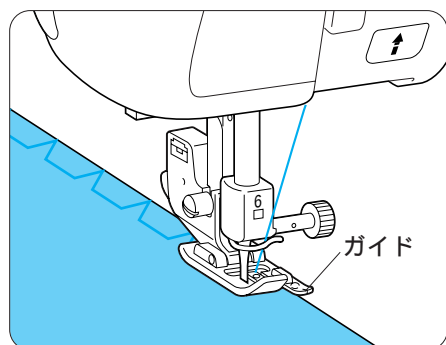
伸びる布地をぬうときに使用します。

針を布端より少し外側に落としながらぬってください。



たちめかがり

薄地、普通地のときは 、伸びる布地のときは を選んでください。



■ のたちめかがり

薄地、普通地に使用します。

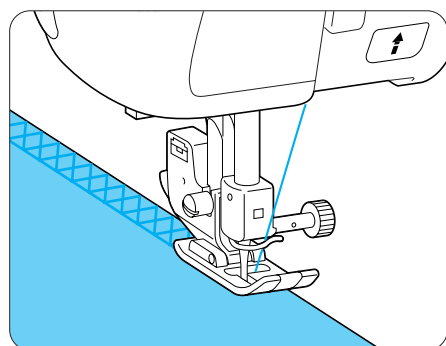
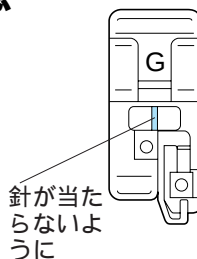
< G > 押えを取り付け、布地を押えのガイドにあてながらぬってください。

あらかじめプログラム糸切りを設定しておく、自動的にぬい始め、ぬい終わりで止めぬいをして糸を切ります。

⚠ 注意



- 振り幅を調節したときはプーリーを手で回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れてけがをする恐れがあります。



■ のたちめかがり

伸びる布地に使用します。

< J > 押えを取り付け、針を布端より少し外側に落としながらぬってください。

あらかじめプログラム糸切りを設定しておく、自動的にぬい始め、ぬい終わりで止めぬいをして糸を切ります。



まつりぬい

伸びる布地のときは  を選んでください。それ以外のときは  を選んでください。

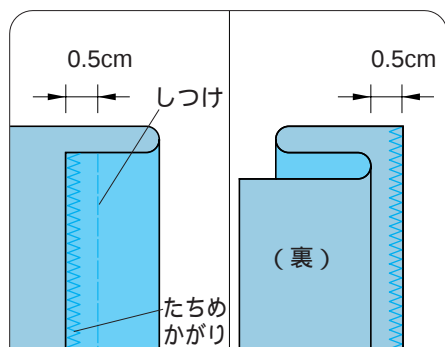
なお
使用
前に

基本
操作

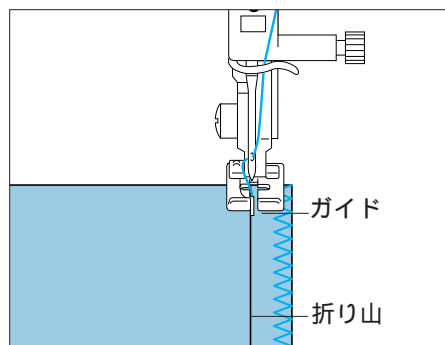
実用
ぬい

お手
入れ

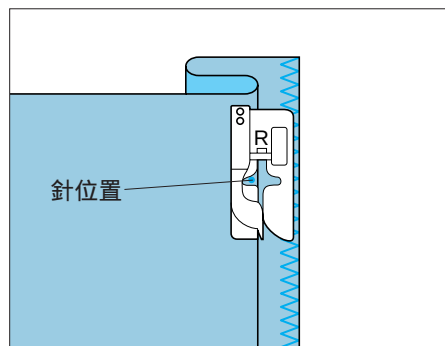
その他



1 裏側を上にして布地を左のように折ってください。

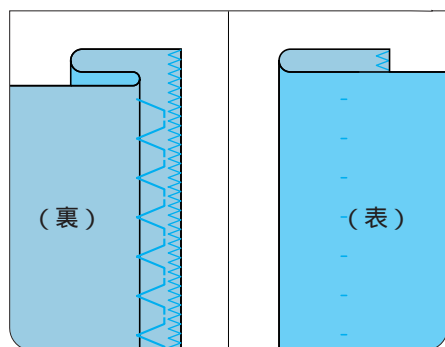


2 < R > 押えを取り付け、ガイドに折り山を合わせて押えを下げてください。

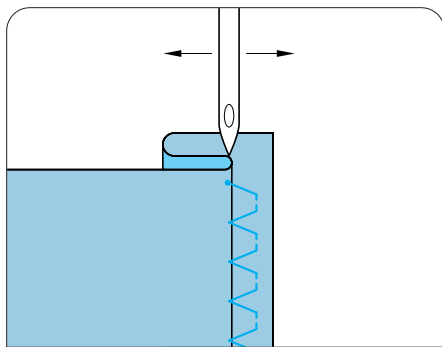


3 布地の折り山をガイドにあてながらぬってください。

あらかじめプログラム糸切りを設定しておくとも自動的にぬい始め・ぬい終わりで止めぬいをして、糸を切ります。

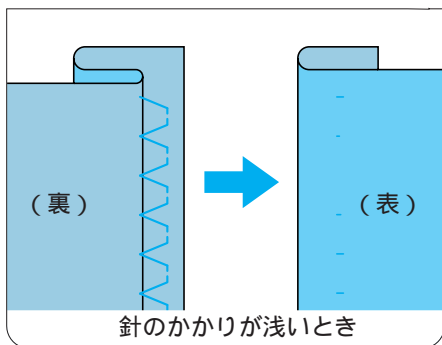
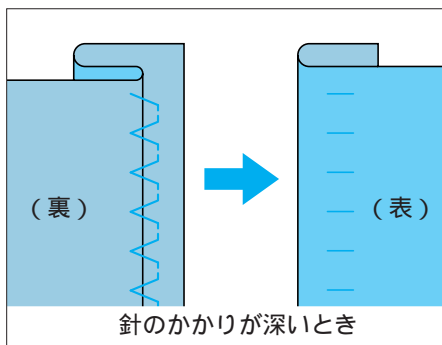


4 しつけをほどいて表に返してください。



■ 針位置の合わせ方

ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、調節レバーで針が布地の折り山にわずかにかかるように調節します。





アップリケ

を選んでください。他に  が使えます。

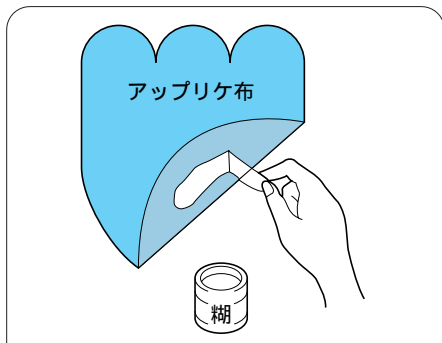
なお
使用
前に

基本
操作

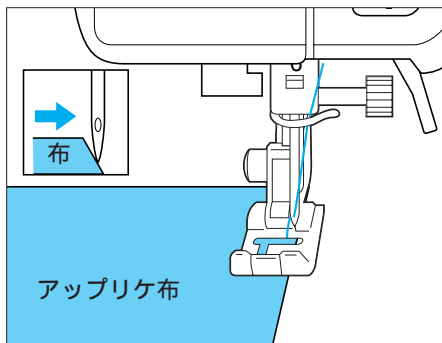
実用
ぬい

お手
入れ

その他

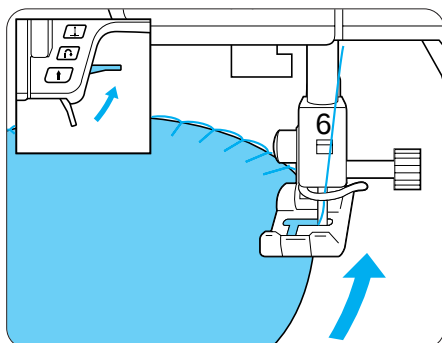
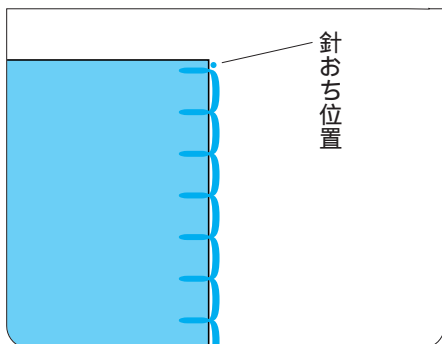


準備：アップリケ布がずれない程度に糊付けするか、しつけをしてください。



1 <J> 押えを取り付け、針をアップリケ布の外側に落としてぬってください。

あらかじめプログラム糸切りを設定しておくと、自動的にぬい始め・ぬい終わりで止めぬいをして糸を切ります。



■ 急な角度をぬうときは

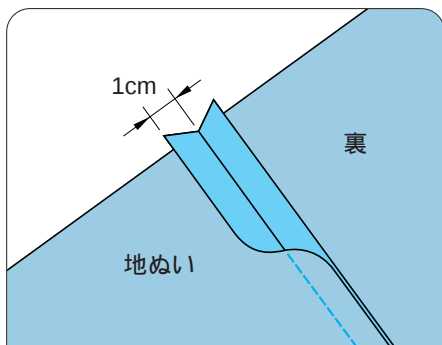
アップリケ布の右側に針を落としてから、押えを上げ、針を軸にして布地を回してください。



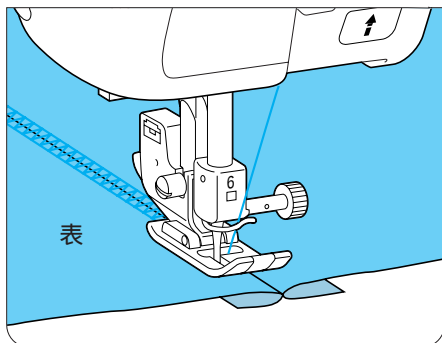
つき合わせ



を選んでください。



準備：＜J＞押えを取り付け、2枚の布を中表に合わせて地ぬいした後、ぬい代を割っておいてください。



押えの中心を布と布の中心に合わせてぬってください。

なお
使用
前に

基本
操作

実用
ぬい

お手
入れ

その他



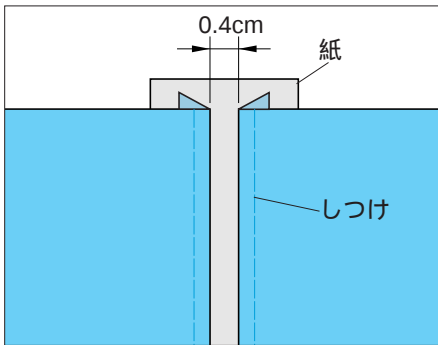
ファゴティング



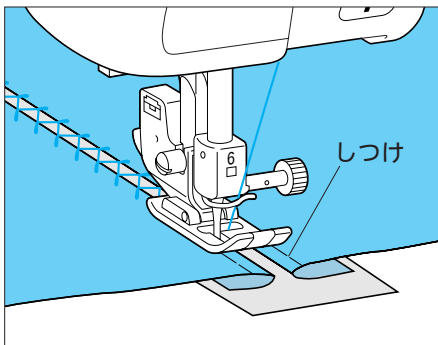
を選んでください。

なお
使用
前に

基本
操作



準備：布地を0.4cmの隙間をあけて薄い紙にしつけしてください。

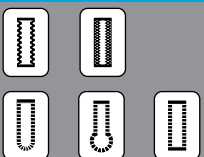


糸は太番手のものを使い、＜J＞押えを取り付けて押えの中心を布と布の中心に合わせてぬってください。紙はぬい終わったら、はがしてください。

実用
ぬい

お手
入れ

その他



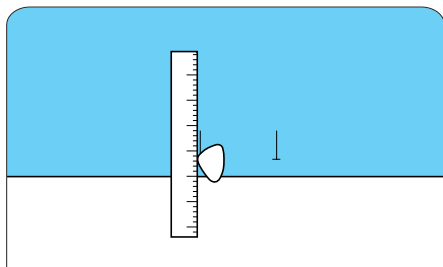
ボタン穴かがり

必ずぬうものと同じ布地 残り布 で試しぬいをしてからぬってください。

薄地、普通地のときは  を選んでください。スーツ、オーバーなどにぬうときは 、ジーンズ、目のあらい伸びる布地のときは 、伸びる布地のときは 、横穴でブラウス、シャツなどの薄地や普通地にぬうときは  を選んでください。

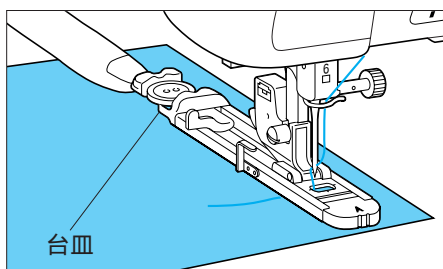
お
使
い
に
前
に

基
本
操
作



1 ボタン穴かがりをしたい位置にしるしをつけてください。

「ボタンの直径 + 厚み」が3cmまでのボタン穴かがりができます。

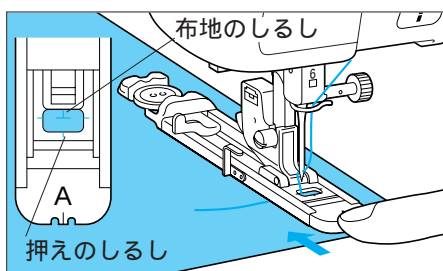


2 < A > 押えを取り付けて、台皿を引き出し、ボタンをのせてはさんでください。

台皿にボタンをはさむことによってボタン穴かがりの大きさが決まります。

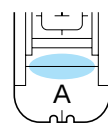
注意：糸は押えの下を通してください。

実
用
ぬ
い



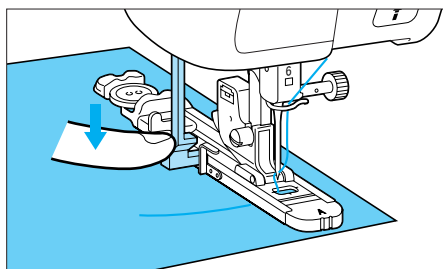
3 押えの赤いしるしに布地のしるしを合わせて、押えを下げてください。

注意：左図の押え部分を向こう側に押して  の部分に隙間がないようにしてください。ボタン穴かがりの大きさが正確に出なくなります。

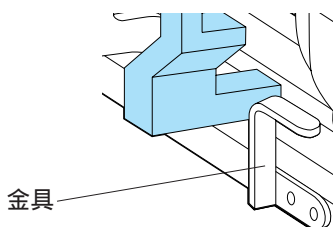


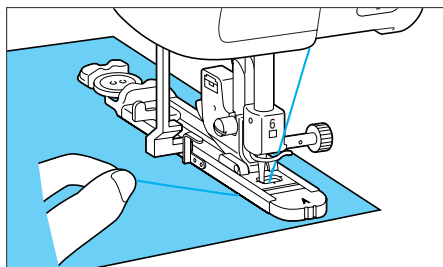
お
手
入
れ

そ
の
他



4 ボタン穴かがりレバーを金具の後ろに下げてください。



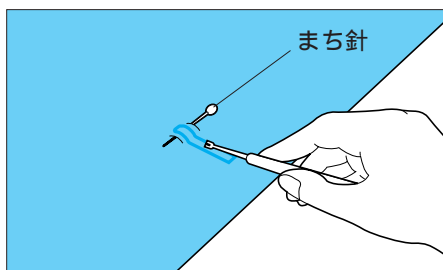


5 上糸を持ってスタートしてください。布地に手を軽く添えてください。ぬい終わると自動的に止めぬいをし
て止まります。

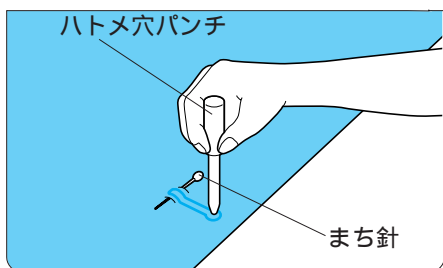
あらかじめプログラム糸切りを設定しておくとぬい終わりは自動
的に糸を切ります。

厚地などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくしてぬってく
ださい。

ぬい終わりましたら、ボタン穴かがりレバーを止まるまでいっば
いに押し上げて収納してください。



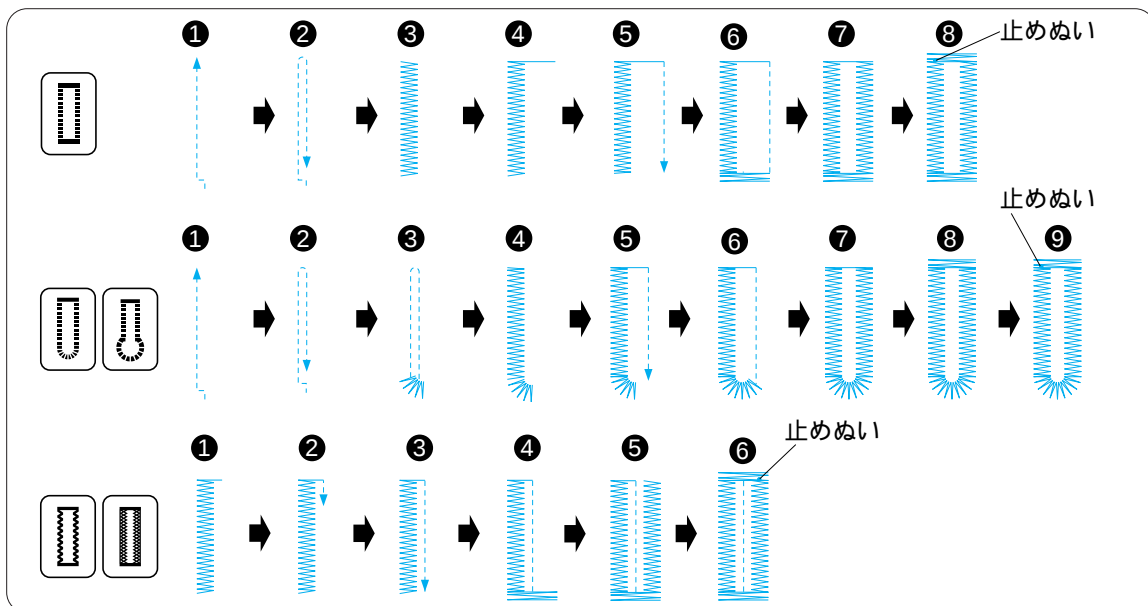
6 かんぬきの内側にまち針をうち、リッパーで糸を切ら
ないように切り開いてください。

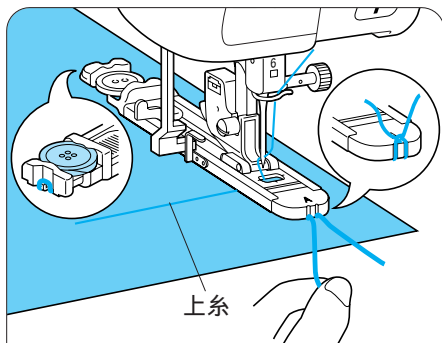


● **ハトメ穴の場合**

付属のハトメ穴パンチでハトメに穴をあけてからリ
ッパーで切り開いてください。

■ **ボタン穴かがりのぬわれていく順序**

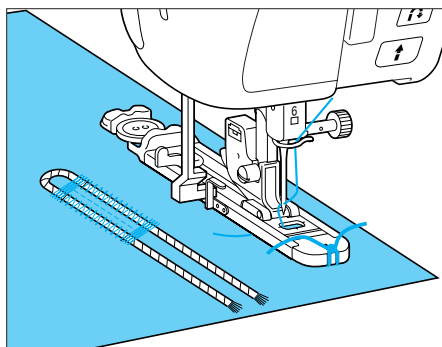




■ 伸びる布地をぬうときは () ()

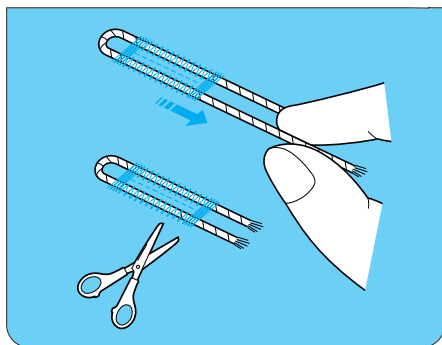
伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、ボタン穴かがりに芯ひもを入れてください。

- 1 < A > 押えの後部のつのに芯ひもをひっかけて押えの前部のみぞにはさんでひもを仮り結びしてください。



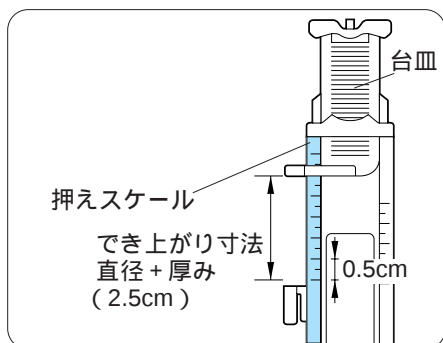
- 2 押えを下げてスタートしてください。

振り幅は芯ひもにあわせてセットしてください。



- 3 ぬい上がったら、芯ひもを引いてたるみをなくし、余分な芯ひもを切ってください。

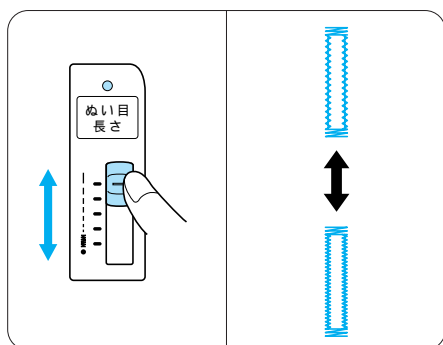
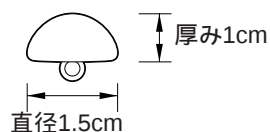
中心にぬわれている糸はリッパーで切り開いた後、切り取ってください。



■ ボタンが台皿にのらないときは

押えスケールの目盛りを使ってボタン穴かがりの大きさをセットします。押えスケールの目盛りは1目盛り0.5cmです。押えスケールの目盛りにボタンの直径 + 厚みの寸法をセットしてください。

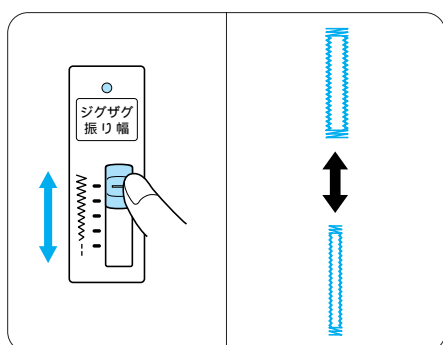
例：直径1.5cm厚み1cmのボタンの場合、スケールを2.5cmにセットします。



■ ぬい目のあらさを変えるには

ぬい目の長さマニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。

厚地などで布地が進まないときにはぬい目をあらくしてぬってください。



■ 振り幅を変えるには

ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。

なお
使用
前に

基本
操作

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

そ
の
他



かんどめ

を選んでください。ポケット口など補強したい部分に用います。

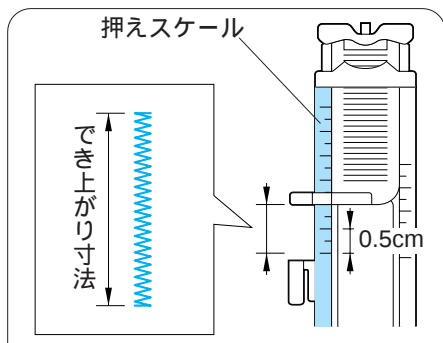
なお
使用
前に

基本
操作

実用
ぬい

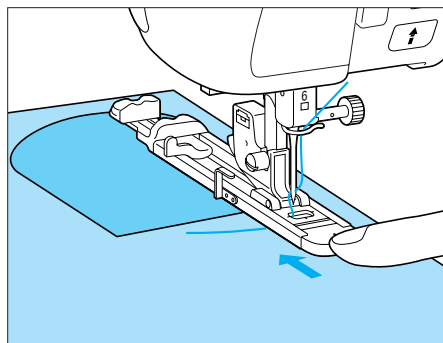
お手
入れ

その他



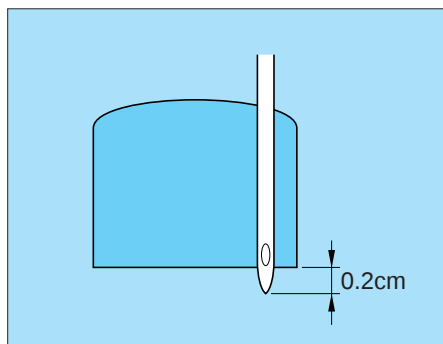
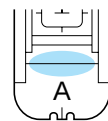
1 < A > 押えの目盛りでぬう長さをセットして、押えを取り付けてください。

0.5～3cmまでのかんどめができます。
通常は、0.5cm～1cmの長さを使います。

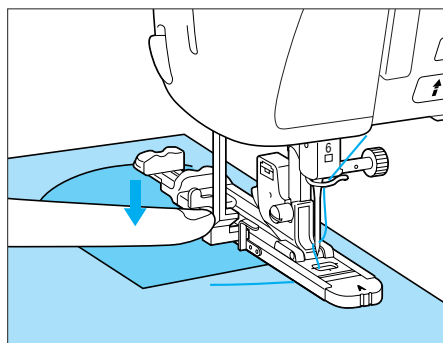


2 ポケット口が手前にくるように布地を置いてください。

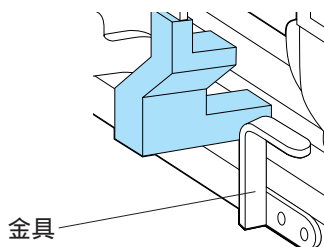
注意：●左図の押え部分を向こう側に押して
■の部分の隙間がないようにしてください。かんどめの大きさが正確でなくなります。
●糸は押えの下を通してください。

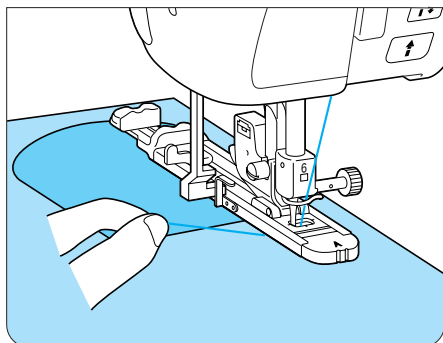


3 ぬい始め位置に針を落として押えを下げてください。



4 ボタン穴かがりレバーを金具の後ろに下げてください。



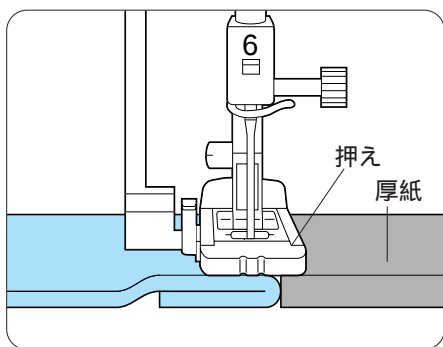


5 上糸を軽く持ってぬってください。ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

あらかじめプログラム糸切りを設定しておくともい終わりは自動的に糸を切ります。

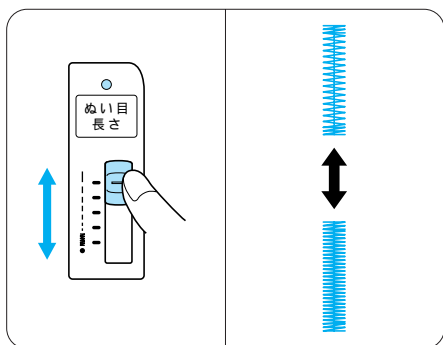
厚地などで布地が進まないときはぬい目をあらくしてぬってください。

ぬい終わりましたら、ボタン穴かがりレバーを止まるまでいっばいに押し上げて収納してください。



■ 厚地の場合

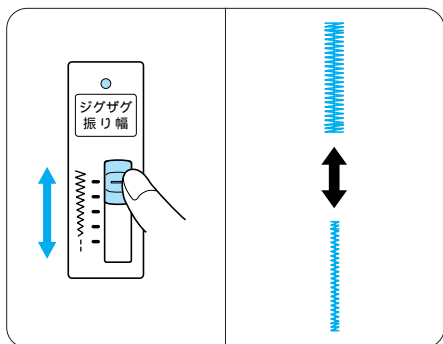
押えが水平になるように厚地または厚紙を使ってぬってください。



■ ぬい目のあらさを変えるには

ぬい目の長さマニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。

厚地などで布地が進まないときはぬい目をあらくしてぬってください。



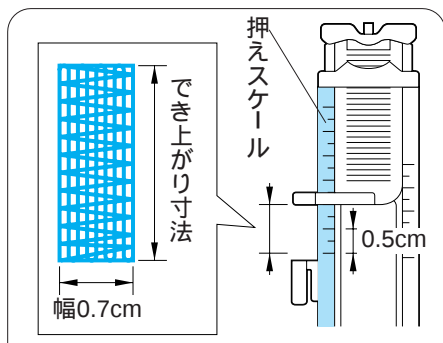
■ 振り幅を変えるには

ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。



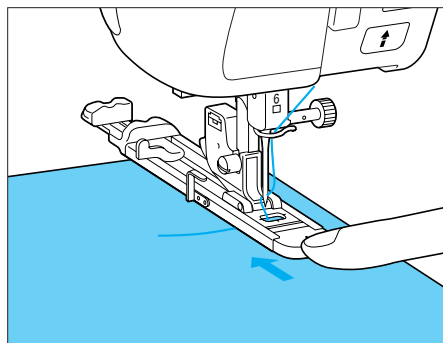
ダーニング

を選んでください。つくろいぬいなどに用います。



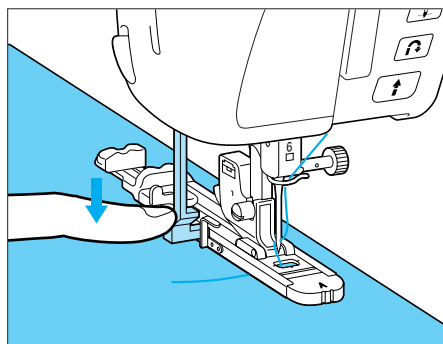
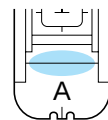
1 < A > 押えの目盛りでぬう長さをセットして、押えを取り付けてください。

最大3cmのダーニングができます。

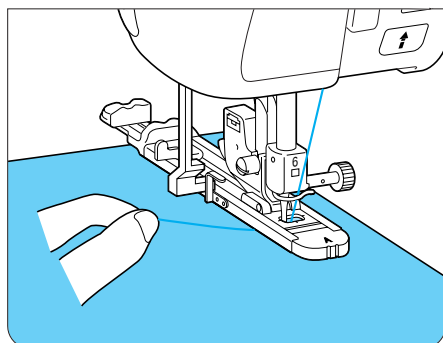
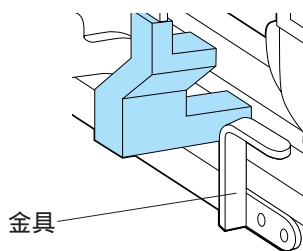


2 ぬい始めの位置に針を落として押えを下げてください。

注意：●左図の押え部分を向こう側に押して
 の部分の隙間がないようにしてください。ダーニングの大きさが正確にでなくなります。
 ●糸は押えの下を通してください。



3 ボタン穴かがりレバーを金具の後ろに下げてください。



4 上糸を軽く持ってぬってください。ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

あらかじめプログラム糸切りを設定しておく、ぬい終わりは自動的に糸を切ります。
 ぬい終わりましたら、ボタン穴かがりレバーを止まるまでいっばいに押し上げて収納してください。

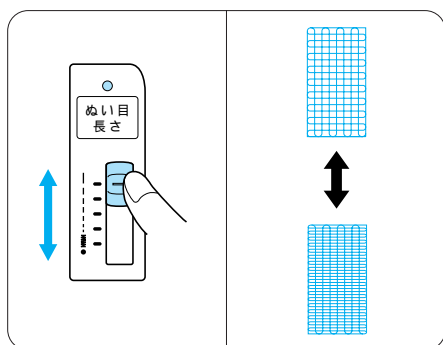
なお使用の前に

基本操作

実用ぬい

お手入れ

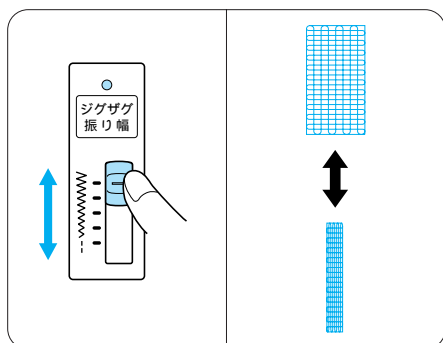
その他



■ ぬい目のあらさを変えるには

ぬい目の長さマニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。

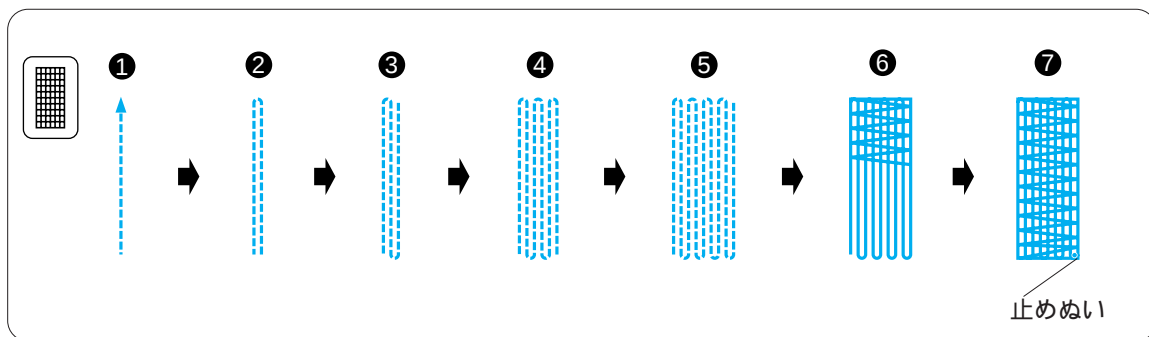
厚地などで布地が進まないときはぬい目をあらくしてぬってください。

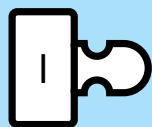


■ ぬい幅を変えるには

ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押し、調節レバーで調節してください。

■ ダーニングのぬわれていく順序





ファスナーつけ

を選んでください。

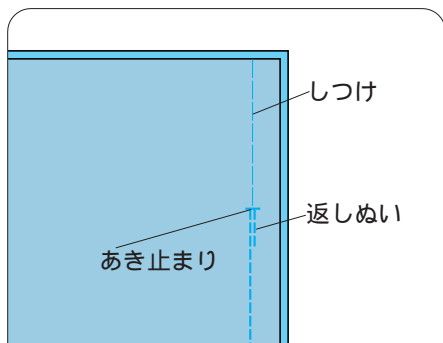
なお使用
前に

基本操
作

実用ぬ
い

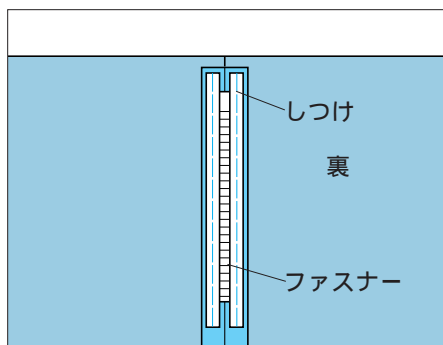
お手入
れ

その他

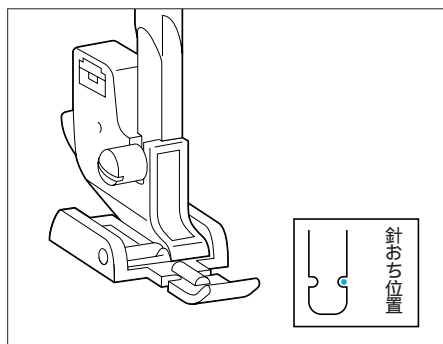


■ つき合わせ

準備：＜J＞押えを取り付け、布地を中表に合わせてあき止まりまでは地ぬいをし、あきの部分 ファスナーを取り付けるところにはしつけをしておいてください。



1 ぬい代を割り、ぬい目にファスナーの中央を合わせてしつけをしてください。



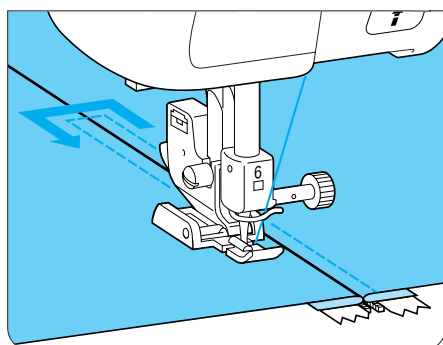
2 ＜I＞押えのピンの右側を押えホルダーに取り付けてください。

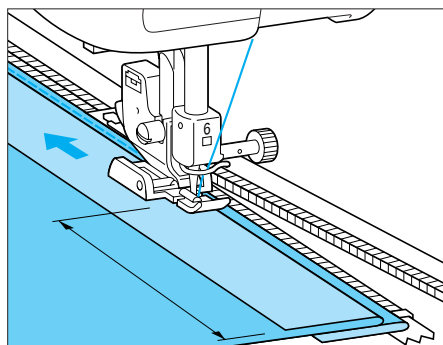
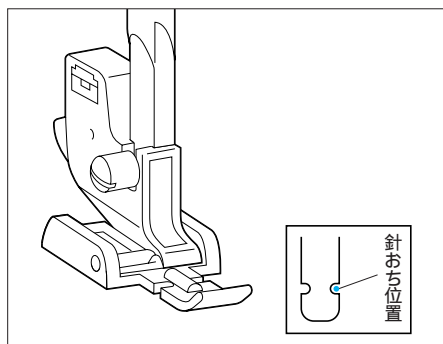
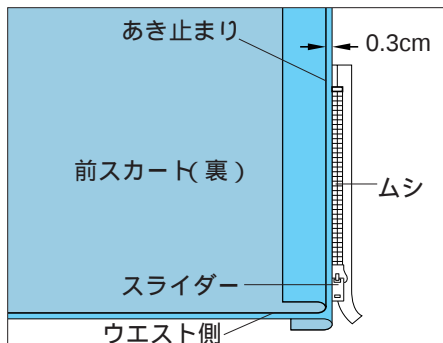
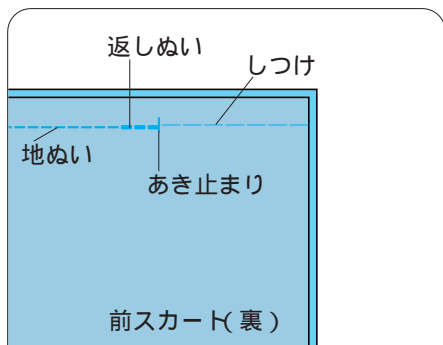
▲ 注意

- ＜I＞押えを使用するときは必ず  直線 中基線 を使用し、プーリーを手で回し針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が折れてけがをする原因となります。

3 表からステッチをかけて、しつけを取ってください。

＜I＞押えを使用する場合、ファスナーの厚みに合わせて糸調子を調整してください。





■ 脇あき

準備：＜J＞押えを取り付け、布地を中表に合わせてあき止まりまでは地ぬいをし、あきの部分にはしつけをしておいてください。

1 ぬい代を割り、後ろスカートのぬい代を0.3cm出して折り山をファスナーのムシのきわに合わせてください。

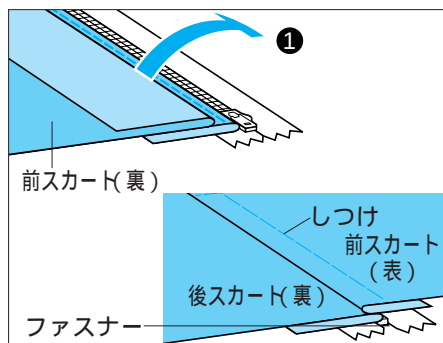
2 ＜I＞押えのピンの右側を押えホルダーに取り付けてください。

▲ 注意

- ＜I＞押えを使用するときは必ず直線中基線を使用し、プーリーを手で回し針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が折れてけがをする原因となります。

3 0.3cmの幅のまん中を、あき止まりからぬってください。5cmくらい手前で、一旦ミシンを止めて、スライダーを下げて端までぬいます。

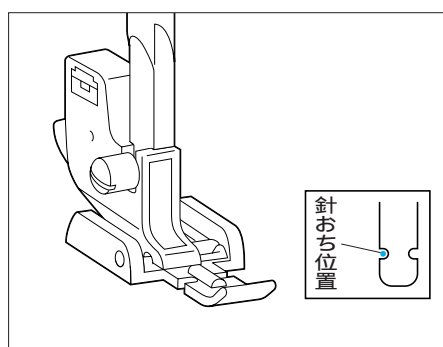
あらかじめプログラム糸切りを設定しておくと、自動的にぬい始め・ぬい終わりで返しぬいをして糸を切ります。



4 ファスナーを閉じて表に返し、しつけをしてください。

お
使
い
に
な
る
前
に

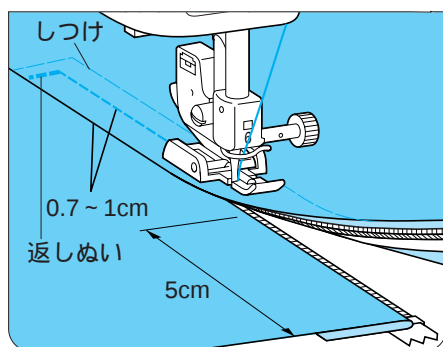
基
本
操
作



5 押さえの取り付け位置を、ピンの左側につけかえてください。

(ファスナーの左側をぬうときは押えの右側に、
右側をぬうときは押えの左側に針おち位置がく
るように押えの位置を調節します。)

実
用
ぬ
い



6 あき止まり部分は返しぬいをして、押えの左端をムシのきわに当てながらぬってください。5cmくらい手前で針をおとしたまましつけをほどき、スライダを下げて残り部分をぬいます。

お
手
入
れ

そ
の
他

ミシンの掃除

本体表面の汚れの掃除

⚠ 注意



- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがまたは感電の原因となります。

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤を薄めて布に浸し、固くしぼってふきとってください。
汚れを取った後は、乾いた布でふきとってください。

お
使
い
に
な
る
前
に

基
本
操
作

釜の掃除

⚠ 注意



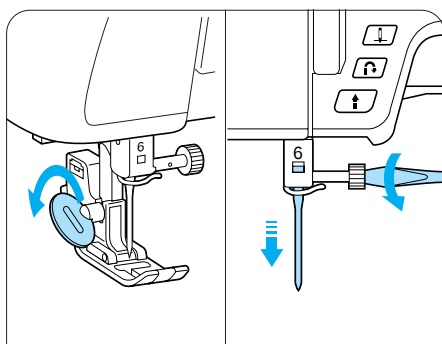
- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがまたは感電の原因となります。

ほこりがたまると縫製不良になる場合があります。
いつもきれいにしておきましょう。

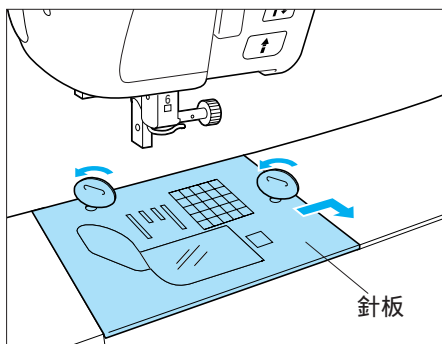
実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

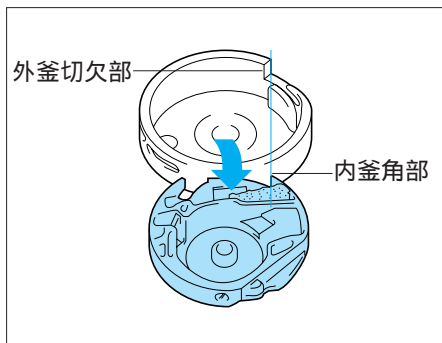
そ
の
他



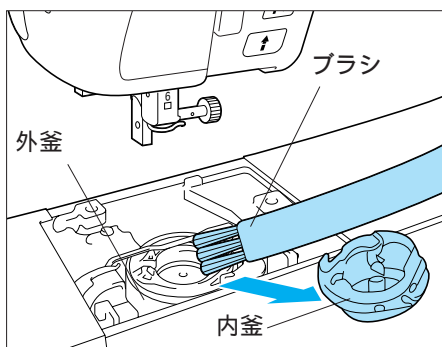
- 1 電源スイッチを切り、押えホルダーと針を外してください。



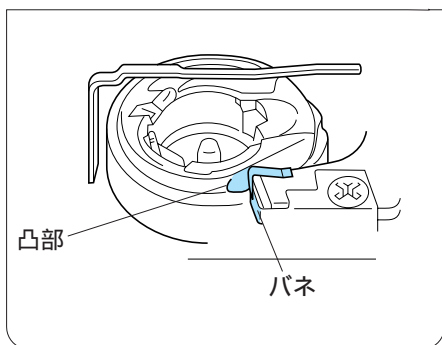
- 2 ネジをゆるめて針板を外してください。



- 3 プーリーを手前に回し、外釜切欠部と内釜角部の位置を合わせて内釜を取り外してください。



- 4 付属のブラシや掃除機で外釜とその周辺の糸くずを取り除いてください。



- 5 内釜を取りはずしたときと同じ位置に外釜切欠部がきていることを確認し、内釜の凸部とバネを合わせて内釜を取り付けてください。

- 6 針板をはめてください。

ランプの交換

⚠ 注意



- ランプが切れたときの交換はガラス部分が冷えてから行ってください。やけどの原因となります。

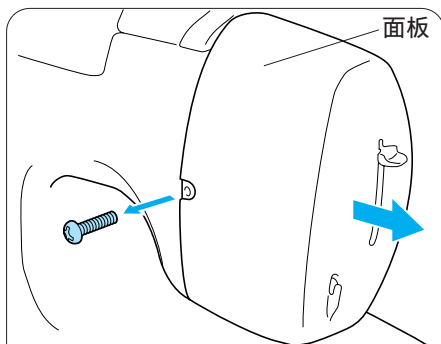
お
使
い
に
な
る
前
に

基
本
操
作

実
用
め
い

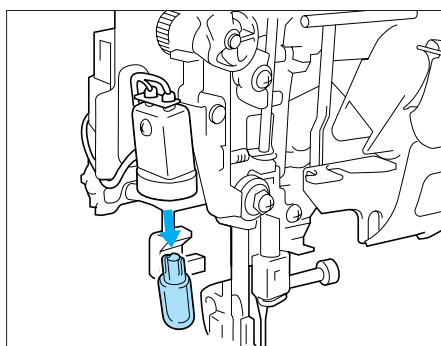
お
手
入
れ

そ
の
他



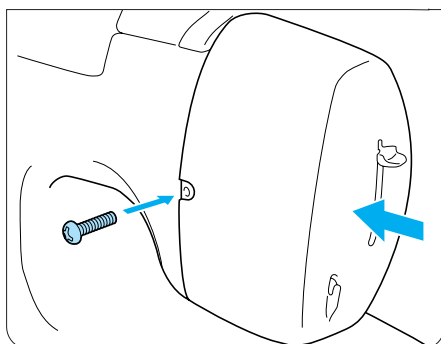
1 電源を切ってください。

2 ミシンの裏側にあるネジをドライバーでゆるめて面
板を外してください。



3 ランプを矢印の方向に外し、新しいランプを取り付け
てください。

注意：ランプは必ず専用のもの 12V5W部品コードXA2037-001 をご使用ください。他のランプは絶対に使用しないでください。
ランプは最寄りのブラザー販売店でお求めください。



4 面
板を取り付け、ねじをドライバーでしっかりしめて
ください。

ぬい方早見表

模様の種類	直線		ジグザグ	三重ぬい	伸縮ぬい	点線 ジグザグ	かたち がかり	まつりぬい		アップリケ	つき 合わせ	ファ ゴ テ ィ ン グ	
選択記号													
押え記号													
主な用途	地ぬい ギヤザ ピン タック		たち 目 か が り・ ア ッ プ リ ケ・ パ ッ チ ワ ー ク	地ぬいぬい目を丈夫にしたいときなど	地ぬい（伸びる布地をぬうとき）	伸びる布地のほつれ止め ゴムひも付け	普通地・薄地のほつれ止め	伸びる布地のほつれ止め	すそ上げ スカートなどの 伸びる布地の ほつれ止め		アップリケ ワッペンつけ	飾りぬい つき合わせ	ファゴ ティン グ 飾りぬい
返しぬい スイッチ	返	返	（返）	止	止	止	止	止	止	止	止	止	止
ジグザグの振り幅 マニュアルスイッチ	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ぬい目の長さ マニュアルスイッチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プログラム 系 切 り													

模様の種類	ボタン 穴がかり					かん どめ	ダー ニング
選択記号							
押え記号							
主な用途	バ ジ マ・ シャ ッ ン の ボ タ ン 穴 が か り	ブ ラ ウ ス・ シャ ッ ン の ボ タ ン 穴 が か り (横穴)	ス ー ツ・ オ ー バ ー の ボ タ ン 穴 が か り	目 の あ ら い 伸 縮 布 地 の ボ タ ン 穴 が か り	伸 縮 布 地 の ボ タ ン 穴 が か り	補 強 ぬ い ボ ケ ッ ト 口 な ど の	つ く ろ い ぬ い
返しぬい スイッチ	-	-	-	-	-	-	-
ジグザグの振り幅 マニュアルスイッチ	○	○	○	○	○	○	○
ぬい目の長さ マニュアルスイッチ	○	○	○	○	○	○	○
プログラム 系 切 り							

- 返** ...返しぬいスイッチを押している間、返しぬいができます。自動止めぬい設定時は後進3針、前進3針の往復ぬいをします。
- (返)**...返しぬいスイッチを押している間、返しぬいができます。自動止めぬい設定時は3針の止めぬいをします。
- 止** ...返しぬいスイッチを押している間、止めぬいを3針行って止まります。自動止めぬい設定時は3針の止めぬいをします。
- ...調節することができます。
- × ...自動のため調節することができません。
- ✂ ...あらかじめプログラム系切りの設定をしておくとぬい終わりは自動的に糸を切ります。
- ✂ ...あらかじめプログラム系切りと自動止めぬいの設定をしておくとぬい終わりは自動的に止めぬいをして糸を切ります。

お
使
い
に
な
る
前
に

基
本
操
作

実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

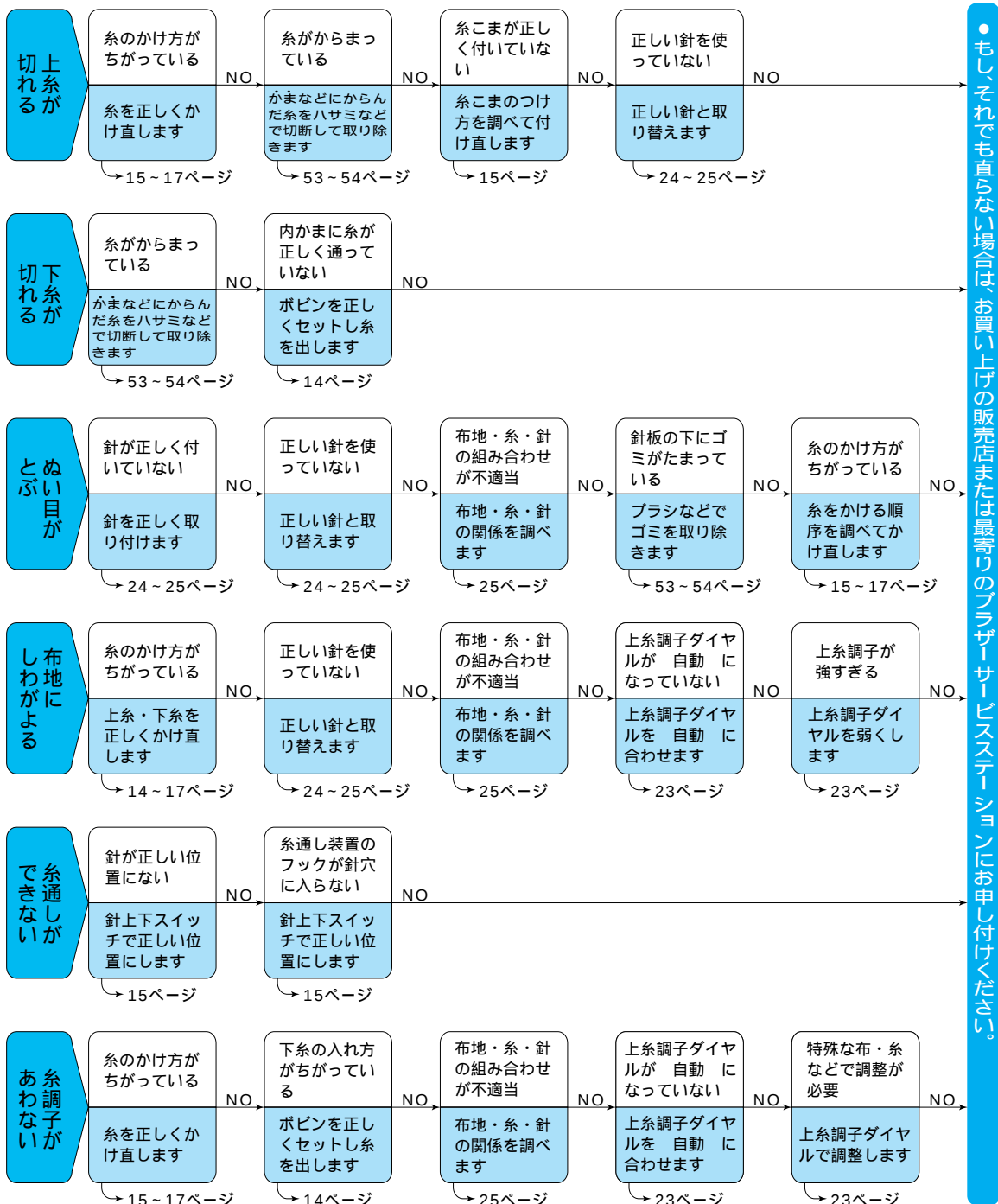
そ
の
他

トラブルチェック

(簡単なミシンの調整)

修理を依頼される前に次の項目を点検し、それでも直らないときはお買い上げの販売店、または、最寄りのブラザーサービスステーションにお申し付けください。

■糸とぬい目のトラブル



お
使
い
に
な
る

基
本
操
作

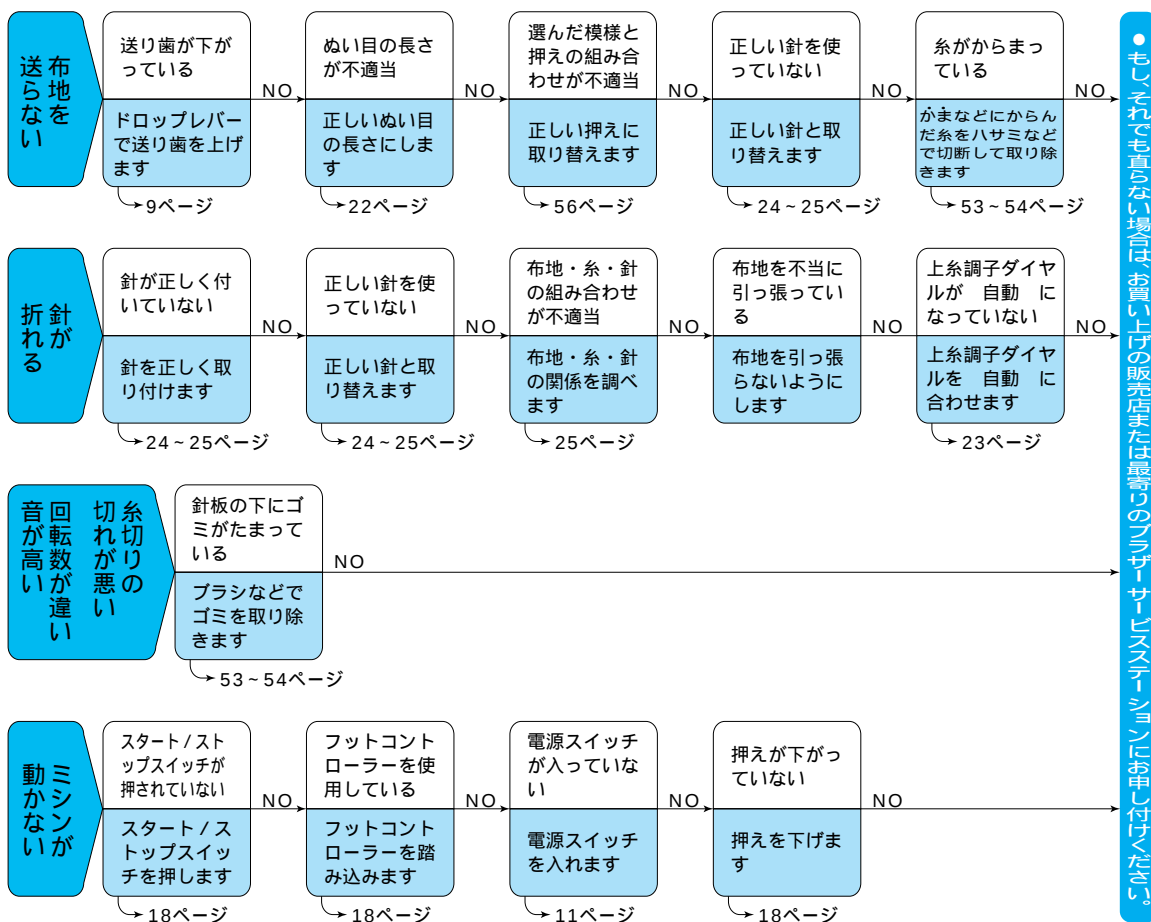
実
用
ぬ
い

お
手
入
れ

そ
の
他

落ちついて原因を確かめましょう。

■ 機械トラブル



ご注意

- このミシンは、針棒切り離し機構により、自動糸切り時に縫製音と異なった音が発生しますが、トラブルではありませんのでご了承ください。
- 運転中に停電が発生した場合
 - ・電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。
 - ・再運転される場合は、運転の手順にもとづき正しく行ってください。

電子音

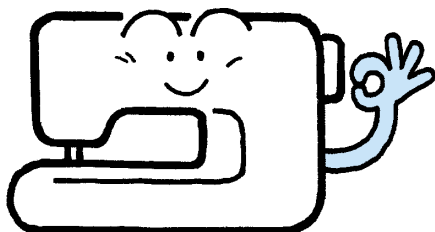
ミシンが正しくセットされていない状態で、スタート/ストップスイッチ、返しぬいスイッチが押されたときやまちがった操作をしたときは、ミシンが運転されず、電子音でお知らせします。

●電子音

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| 正しい操作をしたとき | → 1回 “ ピッ ” |
| まちがった操作をしたとき | → 2回 “ ピッピッ ” または 4回 “ ピッピッピッピッ ” |
| 糸がらみなどでミシンがロックしたとき | → 4秒間鳴り続けます。 |

この場合

- ミシンは自動的に止まります。
- 停止後4秒経過すると、操作可能状態に戻ります。
- ロックした原因を直さないでスタート/ストップスイッチを押さないでください。
- 糸がらみなどでロックした原因を直すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



アフターサービス

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください。) それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年保有しています。
 - ・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の《お客様相談室》へお問い合わせください。

お客様相談室

北海道お客様相談室	〒060-0063	札幌市中央区南三条西3-2-2	TEL(011) 261-6631	FAX(011) 221-3974
東北お客様相談室	〒980-0811	仙台市青葉区一番町2-3-10	TEL(022) 227-8877	FAX(022) 227-8205
東京お客様相談室	〒104-0031	東京都中央区京橋3-3-8	TEL(03) 281-4204	FAX(052) 24-3031
中部お客様相談室	〒467-8577	名古屋市瑞穂区苗代町15-1	TEL(052) 24-3193	FAX(052) 24-3031
関西お客様相談室	〒550-0012	大阪市西区立売堀4-4-2	TEL(06) 531-4670	FAX(052) 24-3031
中四国お客様相談室	〒730-0021	広島市中区胡町4-2-8	TEL(082) 240-3762	FAX(082) 240-1478
九州お客様相談室	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前2-3-12	TEL(092) 431-6566	FAX(092) 481-7268
本社お客様相談室	〒467-8577	名古屋市瑞穂区苗代町15-1	TEL(052) 24-3125	FAX(052) 24-3031

ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の《お客様相談室》へご連絡ください。

上記の電話・FAX番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ブラザー工業株式会社

取扱店

名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561